

次世代へ快適な環境を



「自然のエネルギーがえがく未来」

# SANIX

2024年3月期 統合報告書

**SANIX**  
株式会社サニックス

〒812-0013  
福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号  
TEL:092-436-8870

サニックス  検索



株式会社サニックス

# 次世代へ快適な環境を

サニックスグループは、1975年の創業以来、一般家屋から、ビル・マンション、オフィス、レストランなど、生活空間の快適環境づくりに取り組んでまいりました。

そして、1994年には、産業廃棄物処理・リサイクル事業に参入し、静脈産業の重要性を強く意識した事業を展開。地球環境にまで事業領域を広げました。

さらには、プラスチックの燃料化リサイクルおよび当燃料を利用した発電事業、ならびに、再生可能エネルギーの代表格である太陽光発電の販売・施工、電力小売事業など、「環境」というアプローチの先にたどりついたエネルギー事業にも注力するに至っています。

世界規模で持続可能な社会の構築が叫ばれる今、地球環境に対する取り組みは、必要不可欠な課題として、重要性を増しています。当社グループは、「次世代へ快適な環境を」という企業理念のもと、「快適な住環境を次世代につなぐこと」「環境負荷の低いエネルギー」「資源を捨てずに循環させること」、これらが当たり前の価値観として定着する社会の早期実現に向けて前進します。

## Mission

### 企業理念

次世代へ快適な環境を

### 社是

社の使命は、あらゆる空間を対象に、エネルギーおよび環境に関する総合的な改善・向上をめざし、人間的コミュニケーションを通して、人と環境のよりよい関係を創造することにある。

## Vision

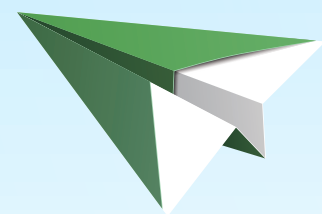
### ビジョン

環境とエネルギーのトップ企業へ

## Value

### 経営理念

仕事は教育で 教育が経営である



## 目次

サニックスグループとは	5
サニックスグループの事業領域	6
数字で見るサニックスグループ	7
絵で見るサニックスグループ	8
サニックスグループの事業	10
サニックスグループの歩み	12
サニックスグループの価値創造	14
マテリアリティ	15
価値創造プロセス	18
サニックスグループの成長戦略	20
社長メッセージ	21
中期経営計画(2023~2025年度)の概要	28
住環境領域の価値創造ストーリー	32
エネルギー領域の価値創造ストーリー	36
資源循環領域の価値創造ストーリー	38
持続的成長を支える経営基盤	43
事業活動におけるサステナビリティ	44
人に関するサステナビリティ(教育)	46
人に関するサステナビリティ(雇用)	47
人に関するサステナビリティ(労働安全衛生)	48
人に関するサステナビリティ(顧客満足)	50
社会貢献活動	52
サステナビリティデータ	58
マネジメント体制	60
コーポレートガバナンス	62
コンプライアンス・リスク管理	64
データセクション	67
財務データハイライト	68
株式情報	73
会社情報	74

### 表紙の絵

社内企画「絵画コンクール2024」(従業員のお子様対象)のグランプリ作品です。

「自然のエネルギーがえがく未来」



〈作者談〉

サニックスにきれいな自然や、かいてきなかんきょうを作ってほしいという思いから、この作品をかきました。まわりにかいた花にはきれいな自然を、まん中には快適な環境の意味をこめました。

### 編集方針

サニックスグループが取り組む事業内容および、当事業を通じて、次世代の快適な環境を実現するためのプロセスについて、ステークホルダーの皆さまに理解を深めていただくことを目的に、統合報告書として編集しています。

当社グループは、2023年5月に「中期経営計画(2024年3月期~2026年3月期)」を公表し、取り組んでまいりました。なお、2024年5月に、現状を鑑み、当該中期経営計画の2025年度および2026年度の数値目標を見直しました。この統合報告書では、この数値見直しを含めて、ご説明しています。

商品・サービス、事業内容、財務等に関する詳細情報につきましては、当社ホームページにてご確認ください(URLは74ページ参照)。

なお、本レポートは、国際統合報告書協議会(IIRC)の「国際統合報告書のフレームワーク」とともに、経済産業省策定の「価値協創ガイダンス」を参考に編集しています。

### 報告対象範囲等

■対象期間:2023年度(2023年4月1日~2024年3月31日)

■対象組織:株式会社サニックスおよび国内外の連結子会社

■会計基準:当面は日本基準を適用することとしています。なお、国際財務報告基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく所存です。

### 将来の見通しに関する注意事項

本統合報告書に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、さまざまな要因により、将来時点における実際の収益および業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承ください。

## サニックスグループとは



サニックスグループの事業領域  
数字で見るサニックスグループ  
絵で見るサニックスグループ  
サニックスグループの事業  
サニックスグループの歩み

# 次世代へ快適な環境を 積み重ねてきた実績をベースに、 サニックスグループの挑戦は続きます。

## サニックスグループの事業領域



### エネルギー領域

自家消費型、第三者所有型など、太陽光発電システム導入を最適なカタチでご提案。事業者の脱炭素推進をサポートします。

「環境負荷の低いエネルギー」が当たり前前の社会

### エネルギー領域

(法人向け太陽光発電)  
(電力小売)

「快適な住環境を次世代に引き継いでいく社会」

### 住環境領域

(一般家庭向けサービス)  
(法人・事業主向けサービス)



### 住環境領域

戸建住宅やビル・マンションのメンテナンスを中心に、衛生管理や災害対策をサポート。世代を超えて受け継がれる住まい、建物を守ります。



### 資源循環領域

廃棄物をエネルギー資源として再生・再利用するリサイクルシステムを研究開発・運営。資源循環型社会実現に貢献します。

### 資源循環領域

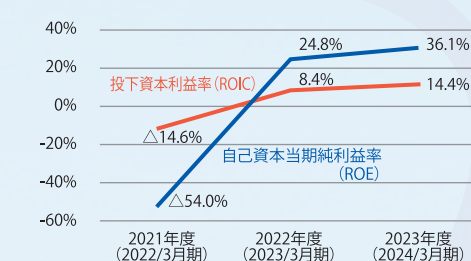
(廃棄物処理・リサイクル)

「資源の循環」が当たり前前の社会

## 数字で見るサニックスグループ

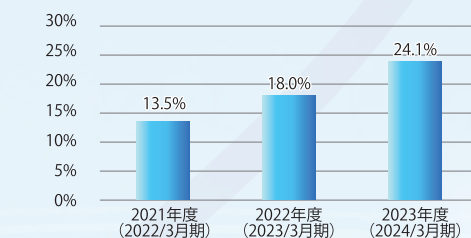
### 財務指標

自己資本当期純利益率(ROE)/投下資本利益率(ROIC\*)の推移

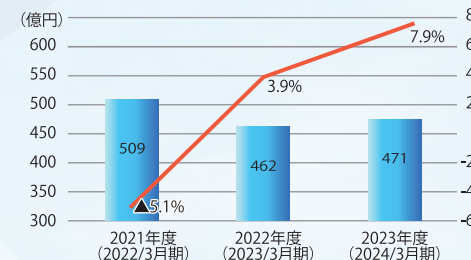


\*ROIC=税引後営業利益÷(株主資本+有利子負債)×100

### 自己資本比率の推移



### 売上高・営業利益率の推移



### 主な事業の累計実績(2024年3月末現在)

- シロアリ消毒施工軒数 約 **835,000** 軒
- ベストコントロール施工軒数 (事業所向け害虫・害獣防除) 約 **34,000** 軒
- 給排水管維持管理施工件数 (防錆機器設置等) 約 **39,000** 件
- 太陽光発電 販売・施工件数 (自社施工分のみ) 約 **50,000** 件  
太陽光発電 販売出力(卸販売含む) 約 **1,470,000** kW
- プラスチック処理量 約 **6,200,000** t  
苫小牧発電所 発電量 約 **5,300,000** MWh
- 廃液処理量 約 **2,600,000** t

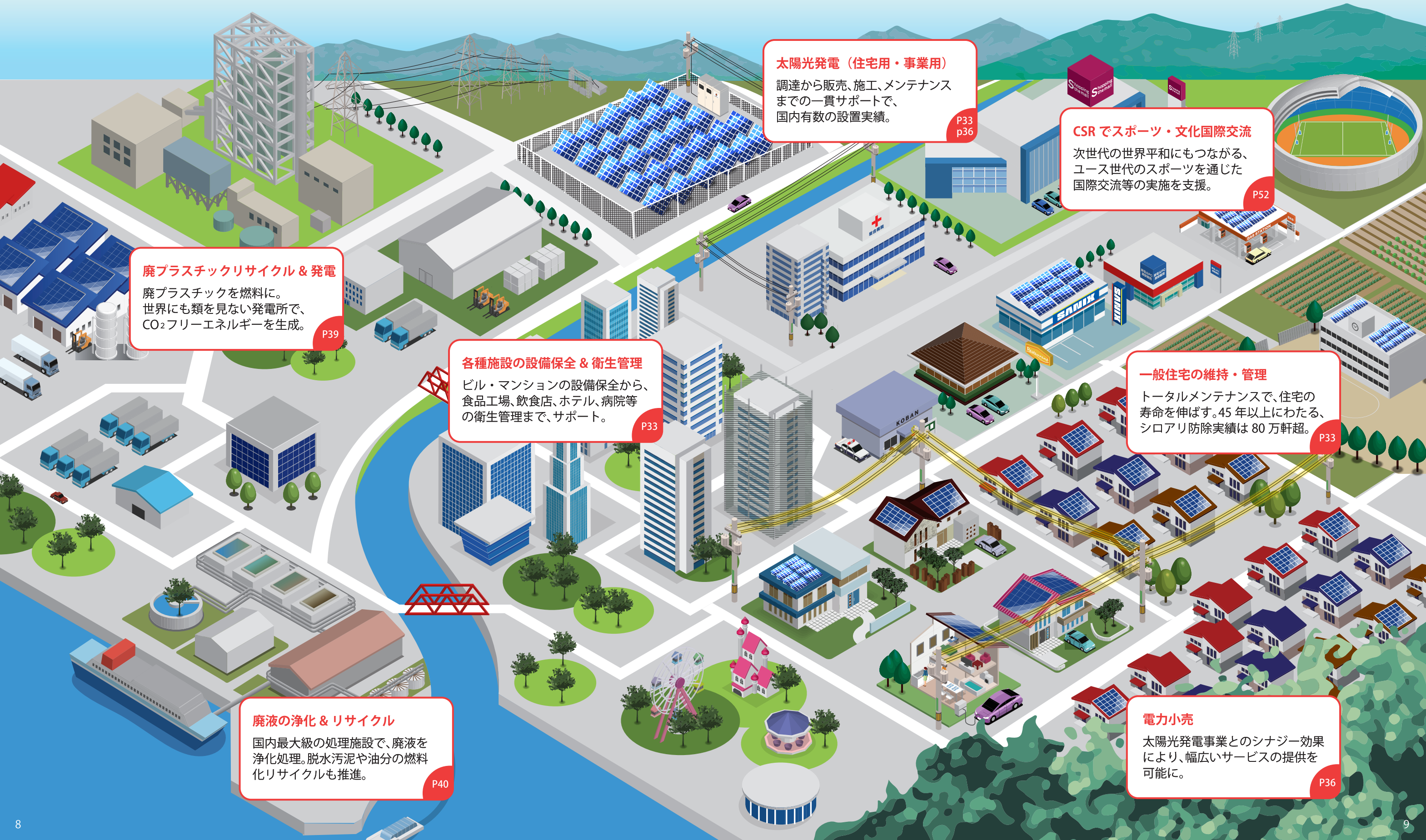
## 事業を通じて、SDGsの達成に貢献します。



# 絵で見るサンニクスグループ

次世代へ快適な環境を。人が暮らし、集う場所に、サンニクス。

サンニクスグループは、「環境」と「エネルギー」の仕事を通じて、地球環境を守りながら、人が快適に暮らせる社会づくりに取り組んでいます。



**廃プラスチックリサイクル & 発電**  
 廃プラスチックを燃料に。世界にも類を見ない発電所で、CO<sub>2</sub>フリーエネルギーを生成。  
 P39

**各種施設の設備保全 & 衛生管理**  
 ビル・マンションの設備保全から、食品工場、飲食店、ホテル、病院等の衛生管理まで、サポート。  
 P33

**太陽光発電（住宅用・事業用）**  
 調達から販売、施工、メンテナンスまでの一貫サポートで、国内有数の設置実績。  
 P33  
 p36

**CSR でスポーツ・文化国際交流**  
 次世代の世界平和にもつながる、ユース世代のスポーツを通じた国際交流等の実施を支援。  
 P52

**一般住宅の維持・管理**  
 トータルメンテナンスで、住宅の寿命を伸ばす。45年以上にわたる、シロアリ防除実績は 80 万軒超。  
 P33

**廃液の浄化 & リサイクル**  
 国内最大級の処理施設で、廃液を浄化処理。脱水污泥や油分の燃料化リサイクルも推進。  
 P40

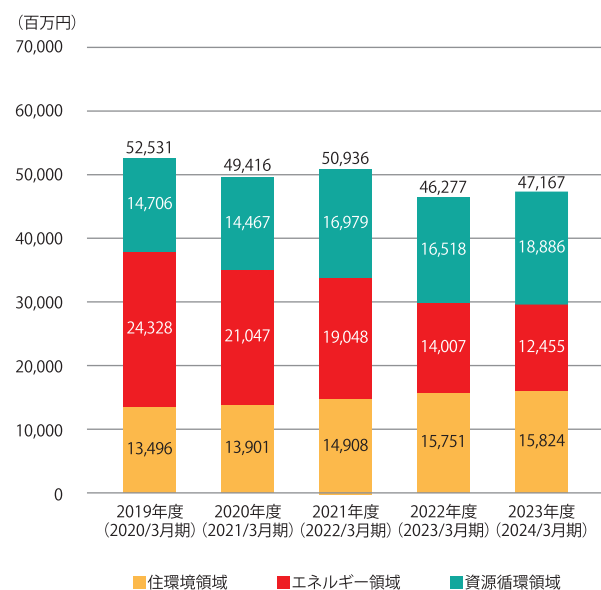
**電力小売**  
 太陽光発電事業とのシナジー効果により、幅広いサービスの提供を可能に。  
 P36

# サニックスグループの事業

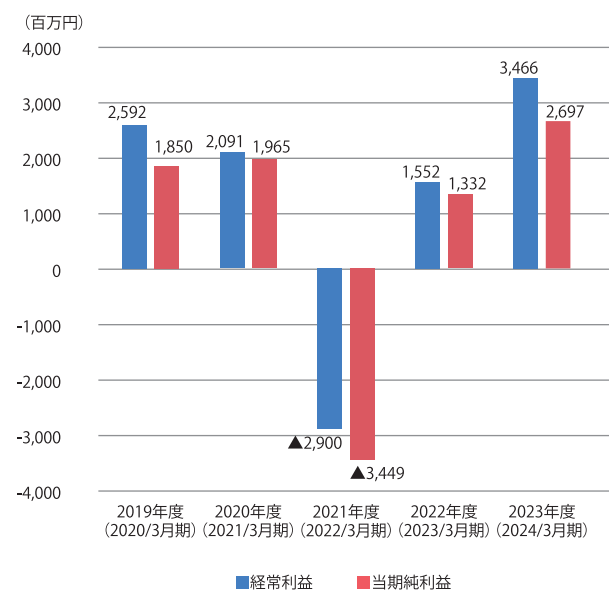
今、環境問題への取り組みは、世界規模での重要課題として位置づけられています。サニックスグループは、長年にわたって、次世代につなぐ環境づくりに取り組んできた企業として、持続可能な社会の実現に寄与すべく、成長を図りながら、事業展開してまいりました。

2023年度、わが国は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受け、経済状況が緩やかに回復する一方、不安定な国際情勢による資源・エネルギー価格の高騰や円安進行に伴う原材料価格の上昇など、依然として先行き不透明な状況で推移しました。当社グループは、時代のニーズに対応しながら、事業を通じた社会課題の解決を推進しています。

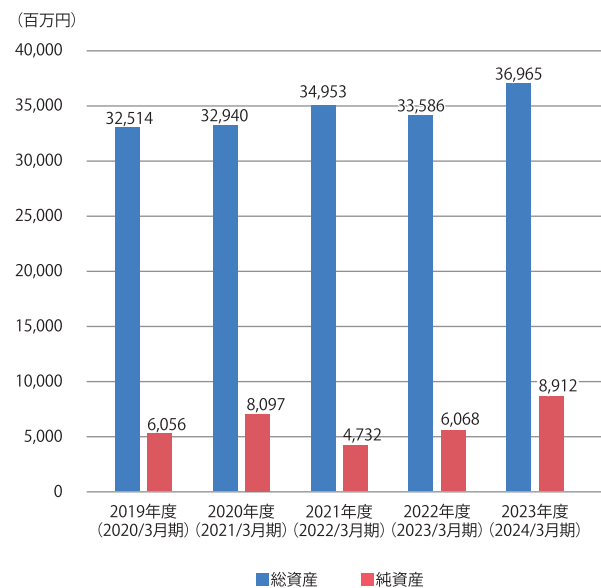
事業領域別売上高



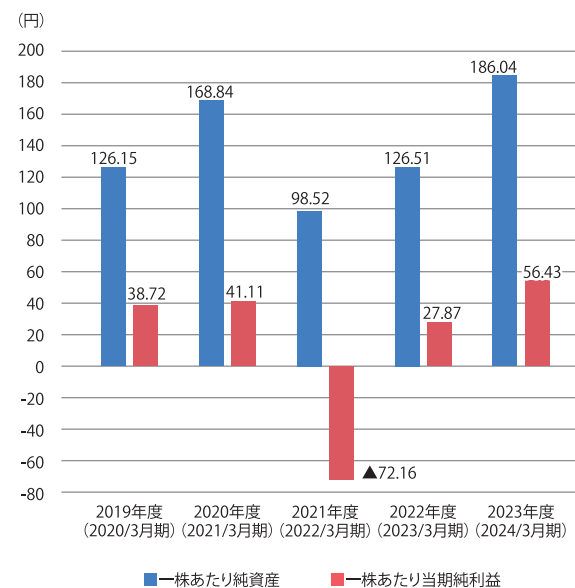
経常利益・当期純利益



総資産・純資産



一株あたり純資産・一株あたり当期純利益



## 主な事業のご紹介

### 住環境領域

#### HS Home Sanitation

ホーム・サニテーション事業 (戸建住宅向けサービス)



- シロアリ防除システム
- 床下・天井裏換気システム
- 基礎補修工事
- 家屋補強システム
- 住まいのリフォーム など



#### ES Establishment Sanitation

エスタブリッシュメント・サニテーション事業 (法人・事業主向けサービス)



- ビル・マンションの給排水設備の保全対策
- ビル・マンションの外壁塗装、屋上防水
- 有害生物の防除 (ペストコントロール) など



#### SE Solar Engineering

ソーラー・エンジニアリング事業 (戸建住宅・小規模建物向け太陽光発電)



- 太陽光発電システム
- 蓄電池システム など



### エネルギー領域

#### PV Photovoltaic

フォトルタイク事業 (法人向け太陽光発電)



- 太陽光発電システム
- O & M (メンテナンス)
- 蓄電池システム など



#### 新電力

電力小売事業



- 電力小売 (事業所向け・家庭向け)



### 資源循環領域

#### ERD Enviromental Resources Development

環境資源開発事業 (廃棄物リサイクル)



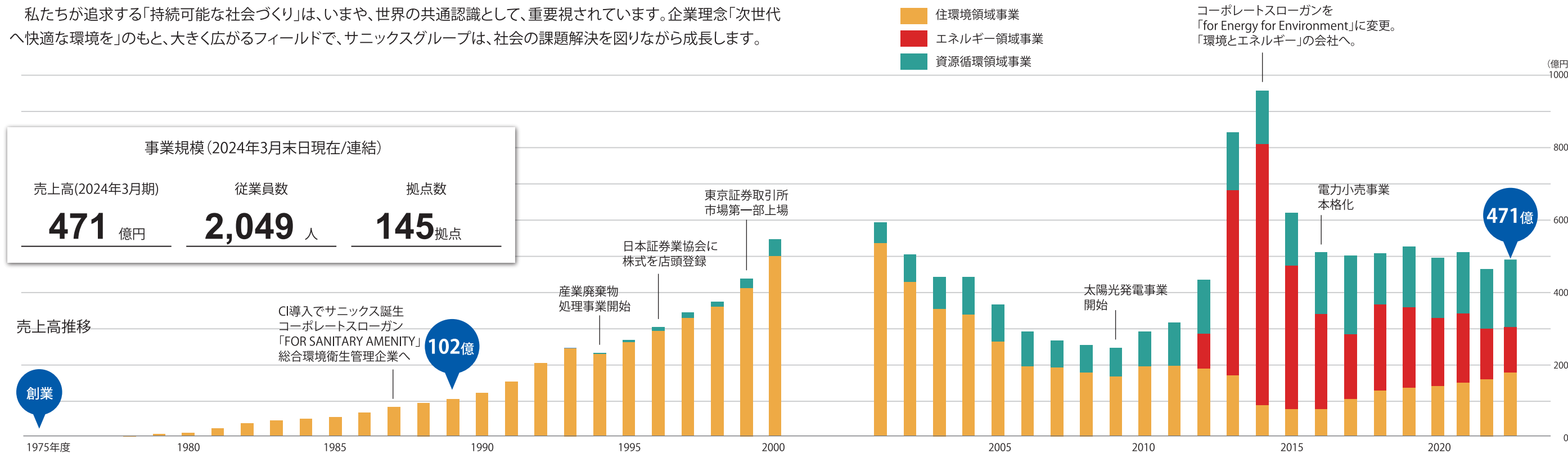
- 廃プラスチックの燃料化
- 資源循環型発電システム (廃プラスチック再生燃料による発電)
- 廃液の浄化・リサイクル
- 廃棄業務一元管理システム販売 など



# サニックスグループの歩み

サニックスグループは、産業として確立したアメリカの環境衛生ビジネスに触れた宗政伸一（前社長）が、その必要性・将来性を確信し、創業したことに端を発します。シロアリ防除からスタートし、時代のニーズに応えるかたちで、産業廃棄物のリサイクル、太陽光発電事業と、業容を拡大。住宅から都市空間、地球環境へと、事業の対象領域を広げてきました。

私たちが追求する「持続可能な社会づくり」は、いまや、世界の共通認識として、重要視されています。企業理念「次世代へ快適な環境を」のもと、大きく広がるフィールドで、サニックスグループは、社会の課題解決を図りながら成長します。



事業規模 (2024年3月末日現在/連結)		
売上高(2024年3月期)	従業員数	拠点数
<b>471</b> 億円	<b>2,049</b> 人	<b>145</b> 拠点

## 1975年 創業 1980年代 消毒業からの脱皮 1990年代 産業廃棄物処理事業を開始し、地球環境を視野に 2000年代 資源循環型発電事業によりエネルギー分野参入 2010年～ 太陽光発電事業が加わり、「環境・エネルギー」企業へ

**1975年 (昭和50年)**  
三洋消毒株式会社創業  
シロアリが発生してから消毒するのが一般的だった業界において、「予防医学」の考え方を前面に打ち出し、潜在的需要を掘り起こしていった。



**1978年 (昭和53年)**  
設立 (三洋消毒株式会社)

**1981年 (昭和56年)**  
法人向けの環境衛生部門をシロアリ部門と分離

**1982年 (昭和57年)**  
総合研修センター及び研究所開設 (福岡県)  
「不潔なところを清潔に、汚いところをきれいにする仕事だからこそ、高い使命感と専門知識が求められる」と、古くから社員教育に注力。

**1987年 (昭和62年)**  
株式会社サニックス発足  
社名を変更し、快適な環境を創造する「トータルサニテーション企業」へ事業を再構築。



**1989年 (平成元年)**  
太陽電池を動力源とする床下換気扇の発売を開始

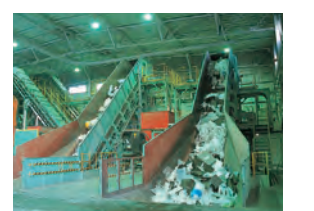
**1991年 (平成3年)**  
機器製造工場を開設 (佐賀県武雄市)  
お客様のニーズに応える製品づくりに向け、自社工場設置。



**1994年 (平成6年)**  
産業廃棄物処理事業に進出  
法人向けの衛生管理事業において、取引先のニーズをつかんだことをきっかけとして、処理工場を新設。「今後は、廃棄物を浄化する静脈産業が重要になる」。

**1998年 (平成10年)**  
薬剤製造の武雄B工場設置  
100%出資子会社(株)サンエイムが運営。

**1999年 (平成11年)**  
廃プラスチックの燃料化事業開始  
廃棄物の焼却処理を行う中で、プラスチックの燃焼カロリーの高さに注目。単純焼却・埋め立てされているプラスチックを燃料として再生する事業をスタート。



**2000年 (平成12年)**  
有機廃液処理事業開始  
ロンドン・ダンピング条約による海洋投棄禁止をにらむ。



**2001年 (平成13年)**  
サーマルリサイクル運営の(株)サニックスエナジー設立  
廃プラスチックのリサイクル燃料による火力発電所の建設を開始。運営会社となる、100%出資子会社を設立。

**特定規模電気事業者登録**  
電力事業参入を見据え、全国で8番目の申請。

**2003年 (平成15年)**  
サニックスエナジー 苫小牧発電所竣工  
廃プラスチック由来の燃料による発電。以後、課題を一つずつクリアし、ノウハウを積んだ。



**2009年 (平成21年)**  
最終処分場運営の(株)ホクハイ・(株)C&Rを買収  
廃プラスチックの燃料化から、発電、焼却灰処分まで。グループ内一貫体制が確立。

**太陽光発電事業を開始**  
太陽光発電の普及拡大に向けて、「いいものをより安く」。

**2010年 (平成22年)**  
(株)北海道サニックス環境を設立  
(株)サニックス苫小牧工場(廃プラスチックの燃料化)を、子会社として分離。

**ソーラーパネル製造・販売の子会社を上海市に設立**  
善日(上海)能源科技有限公司(100%出資子会社)。ソーラーパネルの自社生産を開始し、製造から販売、施工、メンテナンスまで、一貫体制を確立。



**2014年 (平成26年)**  
電力小売を行う、(株)SEウイングスを設立

**2015年 (平成27年)**  
登録小売電気事業者登録

**2016年 (平成28年)**  
電力小売事業に本格参入  
電力小売完全自由化を受け、(株)サニックス本体での電力小売事業を本格化。

**2017年 (平成29年)～**  
VPP構築実証事業に参画  
2017年以降、毎年、経済産業省「需要家側エネルギーリソースを活用したバーチャルパワープラント構築実証事業」参画。

**2018年 (平成30年)**  
廃液浄化処理事業において再生油製造事業を開始  
当再生油は、2021年(令和3年)に「北九州エコプレミアム」、2023年(令和5年)に「福岡県産リサイクル製品」および「経済産業省産業技術環境局長賞」の評価を受ける。

# サニックスグループの価値創造



マテリアリティ  
価値創造プロセス

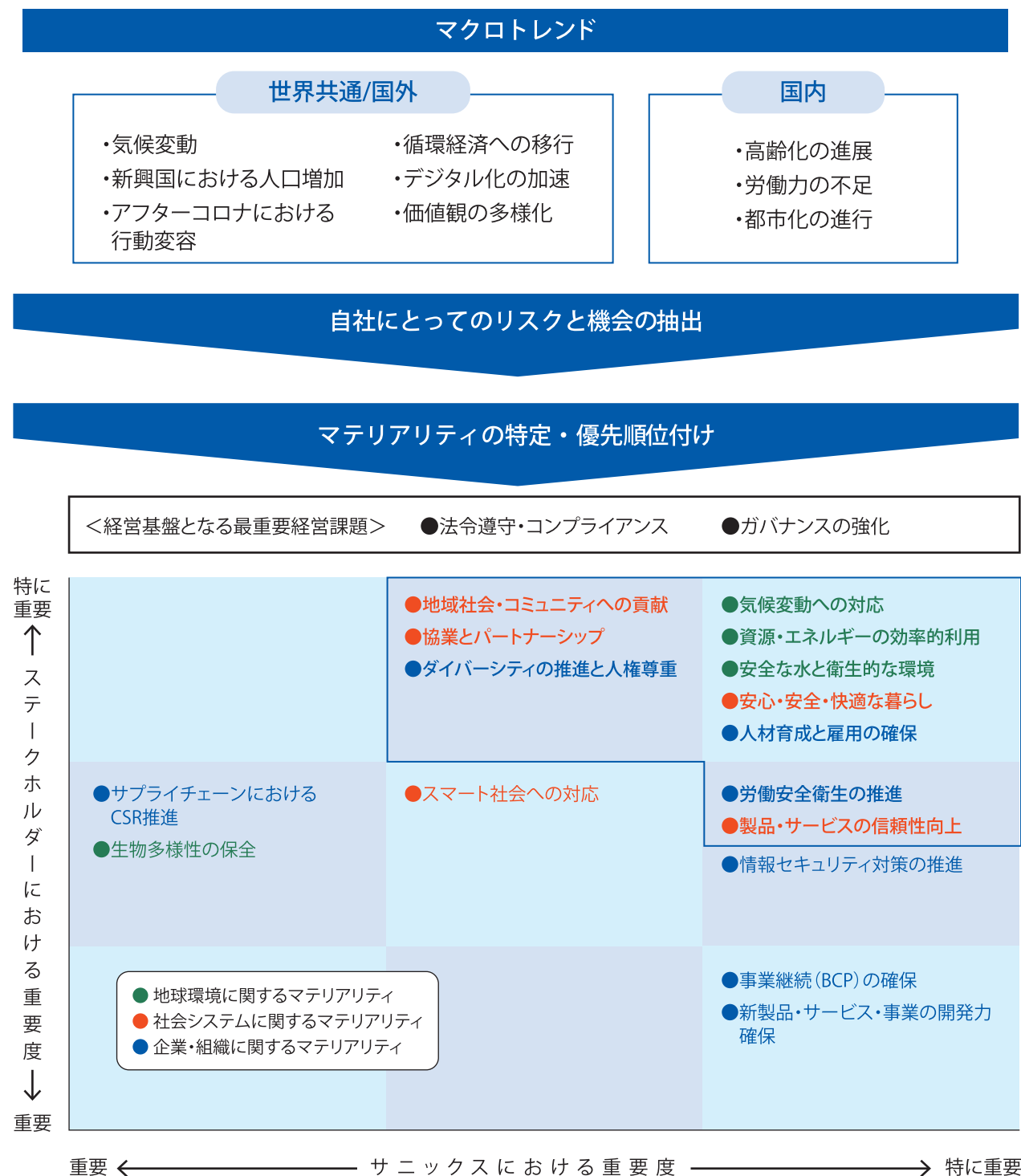
## マテリアリティ

### ■マテリアリティの特定

マクロトレンド分析による社会課題の抽出を出発点として、自社にとってのリスクと機会の分析を通じて経営上の重要課題(マテリアリティ)を特定しました。企業活動への影響度を勘案しながら優先順位付けを行い、マテリアリティを中長期的な経営戦略や個々の事業戦略の策定に活用します。

中でも重要性が高いと位置づけた課題に対して、サニックスグループのもつリソースを集中的に投下する分野として「フォーカス事業領域」を選定しました(17ページ参照)。課題解決に向けて関連するセグメントが強みを生かし協働しながら、成長戦略を確実に遂行し、持続的成長を図っていきます。

なお、サニックスグループのマテリアリティへの取り組みを通じて、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」の達成にも貢献していきます。





■サニックスグループのマテリアリティ

地球環境に関するマテリアリティ	次世代に快適な環境を残していくために、サニックスグループの企業活動および製品・サービスの提供を通じて取り組むべき重要な経営課題
社会システムに関するマテリアリティ	持続可能な社会の実現に向けて、サニックスグループの企業活動および製品・サービスの提供を通じて取り組むべき重要な経営課題
企業と組織に関するマテリアリティ	サニックスグループ内の運営や、社会との関わりにおいて取り組むべき重要な経営課題

■マテリアリティごとのサニックスグループにおけるリスクと機会

マテリアリティ	当社グループにとってのリスク	当社グループにとっての機会	
地球環境	気候変動への対応	気候変動による自然災害リスクの増大 温暖化対策に伴う規制強化	脱炭素に資するニーズの拡大、技術開発の加速
	資源・エネルギーの効率的利用	化石資源・天然資源の枯渇	省エネ・省資源・資源循環に資するニーズの拡大、技術開発の加速
	安全な水と衛生的な環境	安全な水と衛生的な環境の不足による健康リスクの増大	衛生的な環境・空間・水に関するニーズの拡大
社会システム	安心・安全・快適な暮らし	激甚化する自然災害等による生活の不安定化	レジリエンス向上に関するビジネス拡大
	製品・サービスの信頼性向上	品質・安全・環境性能の低下等による社会的信用の失墜	顧客満足度の向上、ビジネス拡大取引先との信頼関係構築
	地域社会・コミュニティへの貢献	信頼性の低下による事業活動への影響	コミュニティとの信頼関係構築、地域社会との共生による事業基盤の安定化
	協業とパートナーシップ	事業領域の硬直化、競争力の低下	当社グループのみでは成し得ないさまざまな事業の創出
企業と組織	人材育成と雇用の確保	労働力不足、人材流出	優秀な人材の確保 円滑な事業活動の継続
	労働安全衛生の推進	物的・人的被害による事業への影響 社会的信用の失墜、長時間労働	従業員の健康と安全確保、生産性の向上、モチベーションの向上
	ダイバーシティの推進と人権尊重	多様化するニーズ・価値観に対応できず競争力低下	優秀な人材の確保 多様な価値観による価値創造力向上

フォーカス事業領域の選定

**住環境領域**

戸建住宅、集合住宅、その他建築物に対する適切なメンテナンスを実施することで、安心・安全・快適な暮らしを提供。また、建物の長寿命化により資源の効率的利用に貢献。



**エネルギー領域**

太陽光発電システムの施工販売により再生可能エネルギーの普及拡大を図り、気候変動への対応、資源・エネルギーの効率的利用に貢献。



**資源循環領域**

産業廃棄物の適正処理、再資源化およびサーマルリサイクルによるエネルギー生成、ならびに廃液処理による水資源の浄化により、資源の効率的利用、清浄な水資源の確保、安心・安全な暮らしに貢献。



強靱な経営基盤の構築

- ・ESG (環境・社会・ガバナンス) の取り組み
- ・人材の育成、働きがいの醸成、従業員の健康 など
- ・経営理念: 「仕事が教育で 教育が経営である」

# 価値創造プロセス

お客様への価値提供を通じて社会課題の解決を図り、次世代へ快適な環境を承継し得る持続可能な社会を実現する

### 社会が抱える課題

- 気候変動
- 資源・エネルギーの効率的利用
- 安全な水と衛生的な環境
- 激甚化する自然災害

### 世界の潮流

- 分散型社会への移行
- デジタル化の進展
- パラダイムシフト  
(モノからコト、所有からシェア、クローズドからオープン)

サニックスグループは、抽出した社会課題について、創業以来積み重ねてきた多様なノウハウと専門知識、地域に根差した拠点網を基礎とし、世の中の流れやお客様との接点の中から生み出した独自の製品・サービス群を社会実装していくことで、課題解決を図ります。また、当社グループとは異なる強み、知見、ノウハウをもつ多様なパートナーとの協働を積極的に進めることで、「お客様」と「社会」と「企業」の共通価値を創造する当社独自のビジネスモデルを、さらに進化・深化させてまいります。

## インプット

### ① 財務資本 (2024年3月末現在)

- ・純資産：8,912百万円
- ・総資産：36,965百万円
- ▶ 財務データ▶68ページ〜参照

### ② 社会関係資本 (2024年3月末現在)

- ・H S 事業：5 地区本部、62拠点
- ・E S 事業：12拠点
- ・S E 事業：2 地区本部、14拠点
- ・P V 事業：30拠点
- ・新電力事業：1 拠点
- ・E R D 事業：19拠点

### ③ 知的資本

顧客接点の多さから得ることのできる貴重な情報(お客様の声)を活用し、顧客第一主義の観点から創出された独自の製品・サービス群▶33ページ参照

### ④ 人的資本 (2024年3月末現在)

連結従業員数：2,049名

#### 【豊富な有資格者】

白蟻防除施工士、一級建築士、宅地建物取引士、建築施工管理技士、電気工事士、電気工事施工管理技士、エネルギー管理士、消費生活アドバイザー 他

### ⑤ 自然資本 (2023年度)

- ・エネルギー使用量  
非化石 4,663千GJ  
化石 228千GJ
- ▶ 環境データ▶58ページ参照

### ⑥ 製造資本 (2024年3月末現在)

- ・物流センター
- ・物流第2センター
- ・善日(嘉善)能源科技有限公司(海外製造拠点)

## 「お客様」と「社会」と「企業」の共通価値を創造する独自のビジネスモデル

多様なパートナーシップ・事業領域の進化と深化



## 提供する価値 (VALUE)

「快適な住環境を次世代につなぐ」  
のが当たり前の社会



「環境負荷の低いエネルギー」が  
当たり前の社会



「捨てない」のが当たり前の社会



「次世代へ快適な環境を」

## サニックスグループの成長戦略



社長メッセージ  
 中期経営計画(2023~2025年度)の概要  
 価値創造ストーリー

### 社長メッセージ

サニックスグループは、1975年の創業以来、住まいから都市空間、地球環境へと対象を広げながら、快適環境づくりを追求してきました。環境に対する取り組みは、いまや世界的な重要テーマです。私たちが推進する事業の意義と目指す方向について、過去の歴史や実績を交えて、お話しします。

株式会社サニックス  
 代表取締役社長

宗政 寛



### 「次世代へ快適な環境を」 2025年に、ホールディングス体制移行へ

1975年、害虫防除からスタートした当社グループは、世の中のニーズに対応しながら事業領域を広げてまいりました。「次世代へ快適な環境を」という企業理念のもと、「住環境」「エネルギー」「資源循環」の3領域において、「環境」を軸とする事業を展開しております。

地球温暖化、環境汚染、資源の枯渇といった環境問題は、地球規模での対策が必要な段階を迎え、「持続可能な社会づくり」は世界の共通認識となっております。国連で採択されたSDGs、COP21で採択されたパリ協定や欧州連合(EU)による新循環経済行動計画にもそれは明らかで、わが国においても、2050年カーボンニュートラル宣言を皮切りに、さまざまな政策が持続可能な社会構築をベースにしたものへと急速に変化しております。こういった潮流は、私たちが長年追求してきた価値観の重要性を再認識させるものであり、事業推進の意を強くするところです。

当社グループが目指すのは、①快適な住環境を次世

代へつなぐ、②環境負荷の低いエネルギー、③資源を捨てずに循環させる、これらの概念が「当たり前」として定着する社会の早期実現です。その加速に向けて、ホールディングス体制への移行を決定し、準備を進めております。

段階的に、まずは法人向け太陽光発電事業を担う株式会社サニックスエンジニアリングおよび、建設業に特化した株式会社サニックスホームビルドサービスを、2024年7月に始動しました。2025年4月には、住環境、資源循環の事業も分社し、ホールディングス体制へ完全移行する予定です。スピーディな経営判断のもと、それぞれに最適な事業運営を行い、成長を図ってまいります。

当社グループは、2025年4月、ホールディングス体制となって新たなスタートを切ります。図らずも創業50周年の節目の年でもあります。グループ一丸となって、持続可能な社会づくりの一翼を担うべく、着実な歩を進めてまいります。

## 中期経営計画(2023~2025年度)と2030年長期ビジョン

当社グループでは、2030年に向けた長期ビジョンにおいて、1,000億円の売上規模への成長を目標の一つとして掲げております。また、既存事業の持続可能な成長の実現に向けた土台づくりを行う期間として「中期経営計画(2024年3月期~2026年3月期)」を策定し、取り組んでおります。

当中期経営計画につきましては、エネルギー価格高騰の長期化を見込んで想定した電力価格に対して、足元の市場価格が下落してきたことを受け、2024年5月

に数値計画を見直しました。先行き不透明な社会情勢の中、変化に柔軟に対応しながら、機会をしっかりと捉えて、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。

当該計画期間におきましては、事業全体で創出するEBITDA(営業利益+減価償却費)を原資に戦略投資枠を設定し、成長投資を実行いたします。戦略投資によって、将来の成長を加速することで、さらなる戦略投資枠の拡大と早期復配を目指してまいります。

### ■サニックス長期ビジョン2030(2021年5月24日発表)

**住環境領域**

「快適な住環境を次世代につなぐ」のが当たり前の社会へ

人員の増加×エリア拡大×営業手法の多様化×顧客サービスの拡充

戸建住宅・集合住宅ともに、建物の状態を定期確認するビジネスモデルの強みを生かし、お客様のライフサイクルや建物の状態に合わせた最適なトータル提案ができる体制構築。

**エネルギー領域**

「環境負荷の低いエネルギー」が当たり前の社会へ


再エネニーズの高まり×太陽光発電・蓄電池のコストダウン+メンテナンス  
製造・設置に加え、メンテナンスや発電所設備および部材のリユース・リサイクル等あらゆる運営面をサポートできる体制構築。

**資源循環領域**

「捨てない」のが当たり前の社会へ

受入量・種類(入口)の拡大⇄分別・選別の高度化⇄リサイクル用途(出口)の多様化

・廃プラスチックのリサイクル用途の多様化(サーマルリサイクルに加え、マテリアル・ケミカルリサイクル)。  
・廃液の処理過程で発生する汚泥、油分分離および燃料化の技術開発(廃液処理から燃料製造への移行)。



温暖化への対応 (脱炭素社会の実現)      資源枯渇への対応 (循環経済の実現)

**持続可能な社会へ**  
「次世代へ快適な環境を」

	2023年度(実績) (2024年3月期)	2030年度(目標) (2031年3月期)
売上高	471億円	1,000億円
営業利益(売上高営業利益率)	37億円(7.9%)	100億円(10%)
当期純利益	26億円	72億円
ROE	36.1%	17%
ROIC	14.4%	15%

### ■中期経営計画(2024年3月期~2026年3月期) (2023年5月15日発表 2024年5月15日修正)

	2024年3月期		2025年度3月期 (計画)	2026年度3月期 (計画)
	計画	実績		
売上高	480億円	471億円	462億円	515億円
営業利益(売上高営業利益率)	32億円	37億円	17億円	28億円
EBITDA*	48億円	53億円	35億円	49億円
ROE	35.0%	36.1%	11.6%	17.0%
ROIC	14.0%	14.4%	6.4%	10.0%
自己資本比率	22.0%	24.1%	25.4%	29.0%

\*EBITDA: 営業利益+減価償却費

## 戸建て住宅からビル・マンションまで「快適な住環境を次世代へつなぐ」

当社グループは、「長く、快適に、安心して暮らせる住まい、そしてそれが次の世代へと引き継がれ循環していく」という概念が当たり前になる社会を目指しております。

### 「建物=暮らし・資産・資源」の維持管理

当社グループの礎を築いたのが、シロアリ消毒をはじめとする、住宅向けサービスのHS(ホーム・サニテーション)事業です。創業当時、シロアリが発生してから対処するのが一般的だった業界で、「被害に遭う前の予防、早期発見・早期対策が重要」と、その必要性を説き、潜在需要を掘り起こしてきたことが、この仕事のビジネスとしての地位を確立させるベースとなりました。シロアリ消毒の施工をさせていただいた住宅は、約83万軒。「快適で長く住める家づくり」を目指して、湿気対策、地震対策、太陽光発電など、サービスの拡充を進めております。

また、ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)事業においては、ビル・マンションの水回り等のメンテナンス施工、レストラン向けのペストコントロール等の環境衛生サービスを提供してまいりました。

日本全国には、約3,000万棟の木造戸建住宅と、200万棟以上の共同住宅があります(総務省/令和5年住宅・土地統計調査)が、少子高齢化に伴う空き家の増加やライフスタイルの変化など、住宅に関するニーズも多様化していくものと考えます。当社グループでは、住宅の

維持・管理のみならず、提供できるサービス領域を拡充させつつ、お客様・建物のライフサイクルや状態に合わせた最適なタイミングで、最適な提案ができる体制を構築してまいります。

これら住環境領域では、人員の増強や教育、業務提携などのアライアンス強化により、新規顧客開拓に注力しております。農業協同組合、生活協同組合・職員互助会、不動産・建設業、小売業などの提携先を通じた、会員様への住宅向けサービスのご案内や、ビル・マンションなどの管理会社・提携先との関係強化を推進。業務提携先数は、着実に増加しております。

### 衛生管理

住環境の維持・管理と並行して、生活空間の「衛生管理」にも取り組んでおります。宿泊施設、商業施設、飲食店から製造工場まで、その対象は多岐にわたります。2020年6月以降、「改正食品衛生法」により、原則、食品を扱うすべての事業者には、「HACCP(ハサップ)」と呼ばれる衛生管理手法の考えを取り入れることが義務付けられております。

衛生レベル自体がサービス品質の一つと考えられる時代です。当社グループでは、HACCPに沿った衛生管理の導入・運用サポートサービスの提供も行っております。今後とも、社会のニーズに応えるべく、衛生管理を推進してまいります。



## 「環境負荷の低いエネルギー」で脱炭素社会の実現を推進

私たちは、「環境負荷の低いエネルギー」が当たり前  
に選ばれ、使われる社会の実現を目指しております。

### 太陽光発電事業の歩み

当社のソーラーパネル(太陽電池モジュール)にまつ  
わる歴史は、1989年に、戸建住宅向けサービス部門の  
取扱商品の一つである床下換気扇の動力源として、小型  
のソーラーパネルを導入したことに始まります。早い時  
期からソーラーパネルを世に送り出した実績が、2009  
年の太陽光発電事業開始へとつながりました。

太陽光発電の事業展開にあたっては、調達から営業、  
設計・施工、メンテナンスまでトータルで行う一貫体制を  
構築し、コストダウンおよび品質向上を図るとともに、  
お客様の安心感や利便性を追求してまいりました。販売  
開始以来、住宅用・事業用あわせて、5万件以上を販売・  
施工し、卸販売も含めた総販売容量は、原発1基分に相  
当する1.4GW(140万kW)を超えております(2024  
年3月末現在)。

2024年7月には、法人向け太陽光発電事業部門を、  
(株)サニックスエンジニアリング(株)サニックスの100%出  
資子会社)として分社し、新たなスタートを切りました。社  
会的ニーズの高い法人向け太陽光発電システム関連事  
業について、機動的な経営判断によって事業環境の変  
化に柔軟に対応し、さらなる成長を目指します。

再生可能エネルギーは、国の政策において主力電源  
と位置づけられており、2050年のカーボンニュートラル



達成のためには、その電源構成比率をさらに高める必要  
があります。再生可能エネルギーの代表格である太陽光  
発電は、2012年に開始されたFIT制度(再生可能エ  
ネルギーの固定価格買取制度)によって普及が加速しま  
したが、現在は買取価格の低減および電気料金の高騰  
などによって、「売る」より「使う」、つまり「自家消費型」へ  
と転換しております。補助金や優遇政策がなくても人々  
に選ばれるエネルギーとなっはじめて、太陽光発電は  
一つの「産業」として自立することができるものと考えま  
す。現に、経済合理性、脱炭素対応、レジリエンス強化な  
ど、導入ニーズも多様化しており、普及拡大はこれからが  
本番であると考えます。

当社グループにおきましては、太陽光で発電した電力  
を店舗・工場内で消費する「自家消費型」の他、自己施設  
に他社所有で設備を設置し、太陽光で発電した電気を購  
入する「第三者保有型」、蓄電池やEV車との連携システ  
ムなど、ユーザーのニーズや電力使用状況にあわせた  
最適など提案を進め、太陽光発電の普及に努めてまいり  
ます。



2018年よりドローンを導入し、工事現場や設置施設での測量や空撮に活用して  
いる。約90名の社員が、国土交通省航空局に登録済みのドローンパイロット。定  
期的な研修と勉強会を実施し、航空法遵守の徹底を図っている。



設計から施工まで自社で行える強みを生かし、自社施設への自家消費型太陽  
光発電導入も進めている(写真は太田工場=プラスチック資源開発工場の例)。自  
家消費型太陽光発電のモデルケースとして、太陽光発電事業にも生かす。

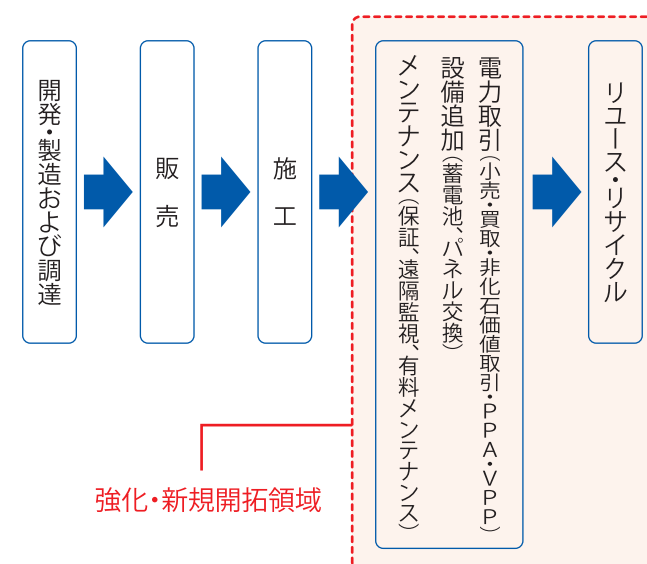
### ソーラーパネルリサイクルからVPP実証まで、 太陽光発電の未来を見据えた取り組みも

さらには、ソーラーパネルのリユース・リサイクルの事  
業化を目指しております。これまで培ってきたソーラー  
パネルの知見と、全国に産業廃棄物の処理ネットワーク  
を有する強みを生かし、ソーラーパネルのリサイクル技  
術の検証を進めているところです。太陽光発電のFIT  
制度による買取期間の満了に伴い、2030年代には使用  
済みの太陽電池パネルが大量に発生する見込みです。  
太陽光発電を持続可能な電源として普及拡大できるよ  
う、リユース・リサイクルの事業化の実現に向けて、実証  
を進めてまいります。

あわせて、当社グループでは、2017年度から2023年  
度まで、分散型リソース(太陽光発電、蓄電池など)を活  
用した実証事業(経済産業省)に参画いたしました。太陽  
光発電は発電量が天候に左右され、電力供給の調整が  
できないことが課題となります。当実証事業は、分散型  
エネルギーリソースをバーチャルパワープラント\*とし  
て活用することで、継続的な再エネ導入と電力系統の安定  
化を低コストで両立する仕組みづくりを目指すものです。  
太陽光発電を、安定した電源へと転換させることは、脱  
炭素社会への大きな一歩につながるものと考えます。こ  
の経験を今後の取り組みに生かしてまいります。

\*バーチャルパワープラント(VPP)…住宅や工場に設置された太陽光  
発電・蓄電池・電気自動車など、分散する小規模な発電・蓄電設備を  
情報技術で一括制御し、一つの発電所のように機能させる仕組み。

### ■ 太陽光発電のトータルサービスの拡充



### 電力小売事業

当社グループでは、電力小売事業も行っております。  
2001年、子会社(株)サニックスエナジー\*の設立に伴い、  
特定規模電気事業者として登録。サニックス本体におい  
ては、2015年10月より電力の供給を開始し、2016年には  
電力小売完全自由化を受けて、家庭向けの電力小売  
も開始いたしました。現在、沖縄電力管内を除く日本全  
国で、工場・事業所から家庭まで電力供給できる体制を  
整えております。

なお、2021年度に、卸電力取引市場(JEPX)の価  
格高騰によって電力調達コストが大幅に増加し採算性  
が著しく低下したことを受け、市場リスクを最小限に抑  
え、採算性を確保できる事業構造に転換しました。翌  
2022年度以降、堅調に推移しております。

当社グループは、再生可能エネルギーの発電源の普  
及拡大を図ると同時に、そのエネルギーを需要家にお  
届けする仕組みをつくり、「環境負荷の低いエネルギー」  
が当たり前となる環境を構築してまいります。

\* (株)サニックスエナジー…資源循環型発電(39ページ参照)において発  
電事業を行う、サニックスエナジー苫小牧発電所を運営。



需要増を見込むメンテナ  
ンス。2015年にサービス提供を  
開始した遠隔監視(WEBモニタ  
リング)サービス「サニックスアイ  
」は、約1万件の太陽光発電所で  
利用されている。

サニックスアイ閲覧画面

## 循環経済と脱炭素社会への移行を同時に「資源を捨てずに循環させる」社会へ

当社グループは、「捨てない」という概念が当たり前になる社会を目指しております。近年、循環経済(サーキュラー・エコノミー)への移行は、脱炭素社会への移行とともに、持続可能な開発に向けた中心課題となっております。かつて、動脈産業が経済成長を牽引したのと同様、「廃棄物を適正に処理・リサイクルし、循環の輪に還す」静脈産業は、現代社会において、重要なポジションにあります。

### プラスチックのリサイクルと資源循環型発電

当社グループの資源循環事業の柱が、「資源循環型発電」(39ページ参照)です。製品としての役目を終えたプラスチックの回収、燃料化、そして当燃料による発電までを行う、独自のビジネスモデルと言えます。

プラスチックのリサイクル事業の開始は、事業者向けの衛生管理を行う中で、廃棄物処理のニーズをキャッチしたことに端を発します。1994年に産業廃棄物の中間処理事業に参入。焼却処理\*を行う中で、プラスチックの燃焼カロリーの高さに着目し、燃料化事業へ。そしてさらに、その燃料を活用する発電所運営へと展開しました。

参入当初の2000年代初頭は、全国で排出される廃プラスチックはその約半分が、単純焼却・埋立処分されておりましたが、現在(2022年度)は、約87%が有効利用されております(一般社団法人プラスチック循環利用協会)。

また、現在日本では、年間約399万トンの産業系廃プラスチックが排出され、その約61%の242万トンが、サーマルリサイクル(エネルギー回収)されております(2022年度・同協会)。これに対して当社グループでは、全国15カ所の工場で、年間約30万トンの廃プラスチックを回収選別し、約20万トンの燃料を製造。このうち、年間約15万トンを、当社グループのサニックスエネルギー苦小



牧発電所(北海道苫小牧市)で利用しております。その発電量は、一般家庭約5万5,000軒の電力消費量に相当します。その分の化石燃料を使わずに発電しているということです。また、当発電所は、2020年度より非化石電源として認定され、「非化石価値」の取引も開始しております。

さらに、廃プラスチック燃料の選別工程で、プラスチック原料に適しているものを分別、協力企業と協働で加工し、プラスチック原料化、さらにはその原料からパレットやハンガー、バッグなどの再生製品とするマテリアルリサイクルも進めてまいります。将来的には、自社でプラスチックの原料化を行い、再生製品をつくるまでのシステムを構築していくことも視野に入れております。これにより、CO<sub>2</sub>削減や資源を最大限に有効活用するなど、環境負荷の低減を意識したお客様(排出事業者)からの要望にも、より柔軟に対応することが可能となります。

### 廃棄業務一元管理システムを提供

2022年4月に、排出事業者を販売対象とする、クラウド型の廃棄業務一元管理システムの販売を開始いたしました。廃棄物処理に携わる中で得た知見に基づき、お客様に必要な機能を搭載。回収依頼や処理状況の管理から、データ分析、コンプライアンスの徹底まで、適正で効率的な業務遂行をサポートするものです。ひいては、廃棄物関連業務の可視化により、コスト適正化や環境経営の推進など、課題の抽出・改善にも効果を発揮いたします。2024年5月には、CO<sub>2</sub>排出量集計機能を追加するなど、アップデートも重ねているところです。

なお、2023年5月には収集運搬業者向けのシステムを、2024年5月には産業廃棄物の中間処理業者向けのシステムを発売。ラインナップを拡充するとともに、3つのシステムをそれぞれ「環境エース一元くん」「収運エース一元くん」「産廃エース一元くん」とネーミングいたしました。「一元くんシリーズ」として利用者拡大を図り、将来的には廃棄物リサイクルのネットワークを構築し、社会全体で資源循環型社会の実現を加速したいと考えております。

※産業廃棄物中間処理(焼却処理)工場…北九州工場=2007年に他社へ事業譲渡。

### 廃液の処理と燃料化リサイクル

資源循環の事業分野では、もう一つ、廃液処理事業に取り組んでおります(ひびき工場=福岡県北九州市)。以前は海洋投棄が当たり前だった廃液を陸上で浄化処理する事業で、2000年より、食品工場などから排出される汚泥や廃棄飲料などを、微生物処理などにより年間10万トン以上浄化しております。現在、廃液の回収先は、近畿・東海地方に及びます。

また、当事業におきましても、単なる処理にとどまらず、廃液から出る油分や汚泥の燃料化リサイクル事業も推進しております。将来的には、燃料の製造を主工程とする工場への移行することも視野に入れております。

2018年には、グリストラップ\*汚泥から油分を分離回収して製造した再生油「再生油B i o」の製造を開始し、重油の代替燃料として販売しております。廃液の燃料化は、油分や汚泥を多く含むものなど、受入可能な廃液の

### ■廃液の浄化処理から、再生燃料製造への移行を図る



飲食店や食品工場から排出される廃液から、油分のみを分離回収し、重油代替燃料「再生油B i o」。ニーズに対応し、2024年3月には製造ラインを2倍に増強し、製造能力4,320 t/年とした。

### 事業を支える「人」づくり 「仕事が教育で教育が経営である」

当社グループでは、従事する一人一人の質が、サービスの質に直結するとの考えから、「仕事が教育で教育が経営である」を経営理念とし、創業当初から、社員教育に注力してまいりました。創業7年目に、自社研修センターおよび、社員教育を担う部署を設置。以来、一貫して、仕事に対する使命感と意欲、豊富な専門知識をもつ専門家集団を形成する人財育成を課題の一つとし、人財育成に取り組んでまいりました。

また、お客様にご満足いただけるサービス提供のため

対象を広げることも可能にするものです。

2021年11月、「再生油B i o」は、「令和3年度北九州エコプレミアム」、2023年3月に、「第15回福岡県産リサイクル製品」、2023年10月に「経済産業省産業技術環境局長賞」としての評価を受けております。需要家からの引き合いも多く、2024年3月には製造ラインを従来の2倍に増強いたしました。

また別に、有機性廃液を脱水処理した際に残る汚泥を固形燃料として再生する実証も実施し、化石燃料の代替燃料として需要家に提供できるよう準備を進めております。

当社グループは、これらの事業を通して、資源循環型社会の構築、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

\*グリストラップ…厨房排水に含まれる油脂分や生ゴミなどを分離、収集する油脂分離阻集器。



実証試験を実施している、浄化処理過程で発生する汚泥の燃料化。有機性廃液を脱水処理した際に残る汚泥を脱塩・乾燥し、化石燃料に代わる固形燃料として再生する。

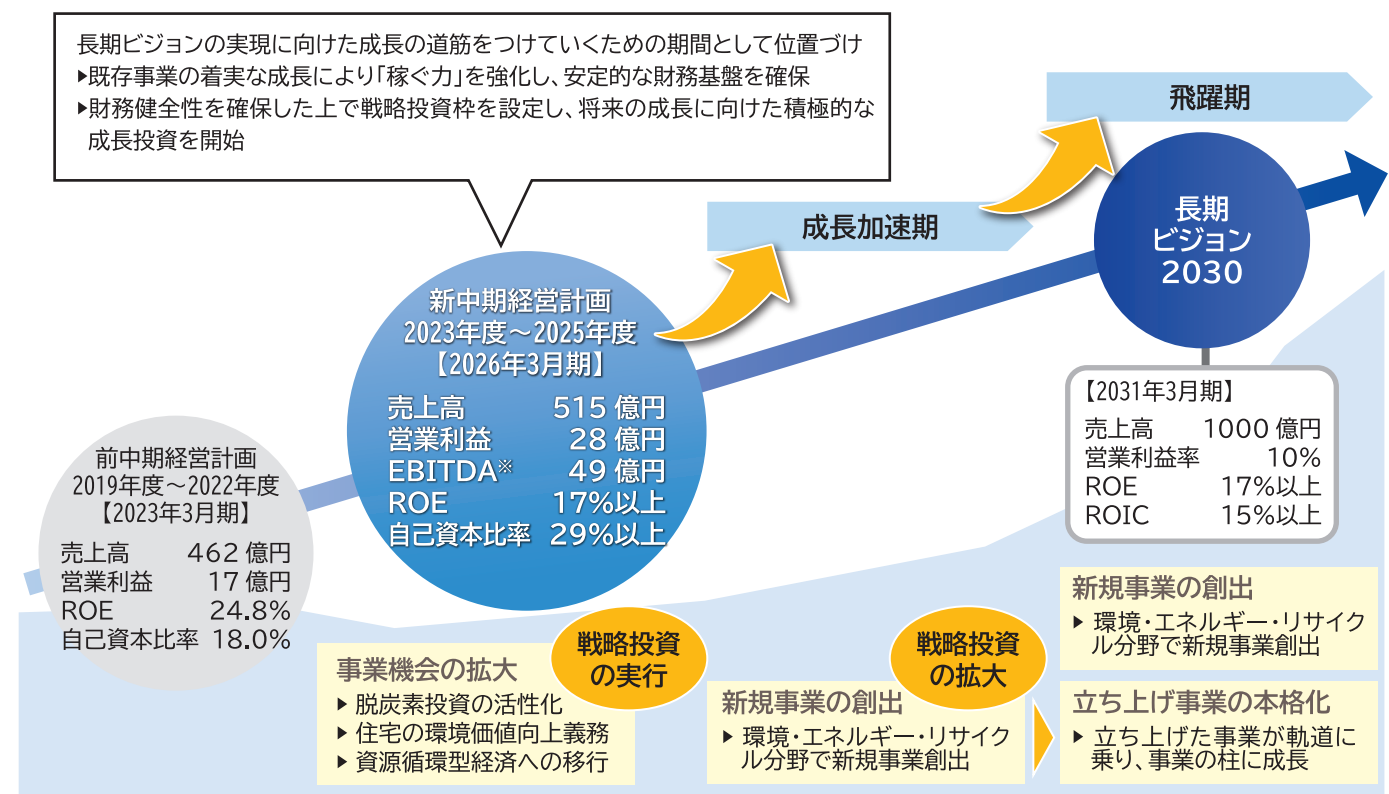
には、従業員がイキイキと働ける職場環境が必要だと考え、従業員教育とあわせて、職場環境づくりにも努めております。

従業員の安全・健康、コンプライアンスを大切にしながら、高度な専門知識をもつ人財の育成と技術革新、付加価値の高いサービスの開発に努め、次世代の快適な環境づくりに貢献してまいります。

# 中期経営計画(2023~2025年度)の概要

当社グループは、資源・エネルギー価格の高騰や円安進行に伴う物価上昇などの影響もあり、先行き不透明な事業環境の中、既存事業の持続可能な成長の実現に向けた土台作りを行う期間として、「中期経営計画(2024年3月期~2026年3月期)」を策定しました。なお、2024年5月15日に当中期経営計画における2025年3月期および2026年3月期の数値目標を見直しています。

## ■ サニックス長期ビジョン2030と中期経営計画(2024年5月15日修正公表)

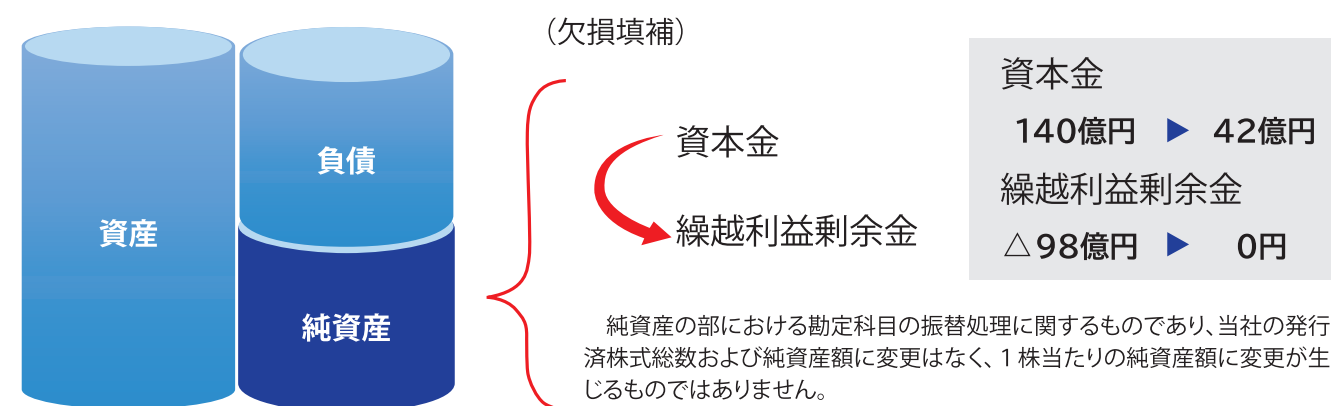


## ■ 環境分析とマテリアリティの特定

	事業環境	重要課題(マテリアリティ)
住環境領域	✓中古住宅市場の活性化に関する政府方針 ✓脱炭素の観点での住宅ストックの良質化を志向する政府方針(太陽光設置義務化、ZEH住宅普及等) ✓コロナ禍における住宅の衛生環境に関する意識・ニーズの高まり ✓ビル・マンションの老朽化対策加速	✓住宅の省エネルギー化等、住宅に関する環境負荷の低減と環境価値の向上に資するサービス提供体制構築 ✓住宅・ビル・マンション等の長寿命化やリフォーム等、既存住宅資源の有効利用促進
エネルギー領域	✓地域社会や企業において、カーボンニュートラルに向けた潮流が本格化 ✓エネルギー価格高騰、電力需給ひっ迫、環境意識の高まりによる再エネ利用ニーズの本格化	✓再エネニーズを満たせる電源開発の促進 ✓太陽光発電が持続的な社会インフラとなるべく、安定的電源としての地位確立
資源循環領域	✓プラスチック廃棄物に関する世界的な課題意識の高まり ✓社会全体として循環経済への移行を標榜 ✓企業に対する廃棄物の適正処理やリサイクル推進の要請強化	✓新たなリサイクル手法の開発 ✓プラスチックのライフサイクル全体を見直し、循環経済への移行に貢献するリサイクルシステムを構築
グループ全体	✓コーポレートガバナンスの要請高度化 ✓ESG指標、非財務情報開示に関する要請強化	✓財務基盤の健全化 ✓ガバナンス体制の要請事項への対応 ✓各領域における企画開発人材の確保、育成

## ■ 資本政策：欠損金の解消

当社は、2024年6月27日開催の第46回定時株主総会にて、「資本金の額の減少及び剰余金の処分の件」について承認可決されたことにより、2024年9月2日に欠損填補に必要な金額を繰越利益剰余金に振り替え、欠損金を解消しました。

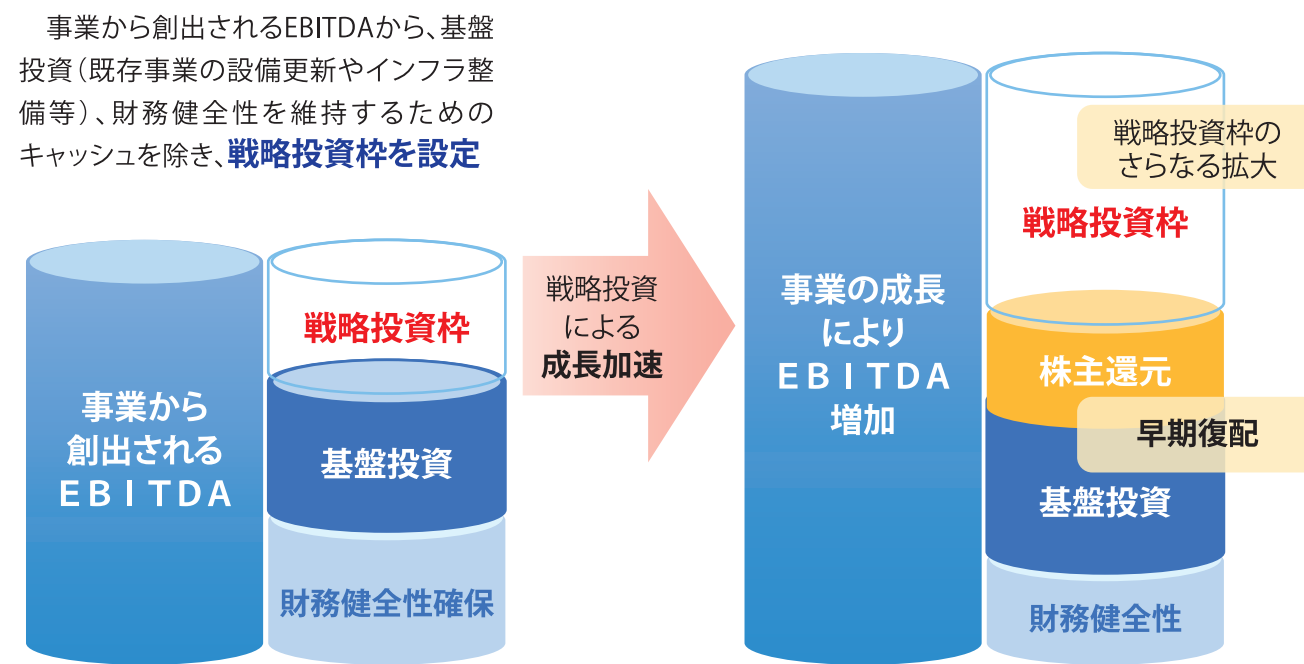


財務体質の健全化を図るとともに、今後の資本政策の柔軟性と機動性の確保

安定した利益を確保し、早期復配へつなげる

## ■ 戦略投資の考え方

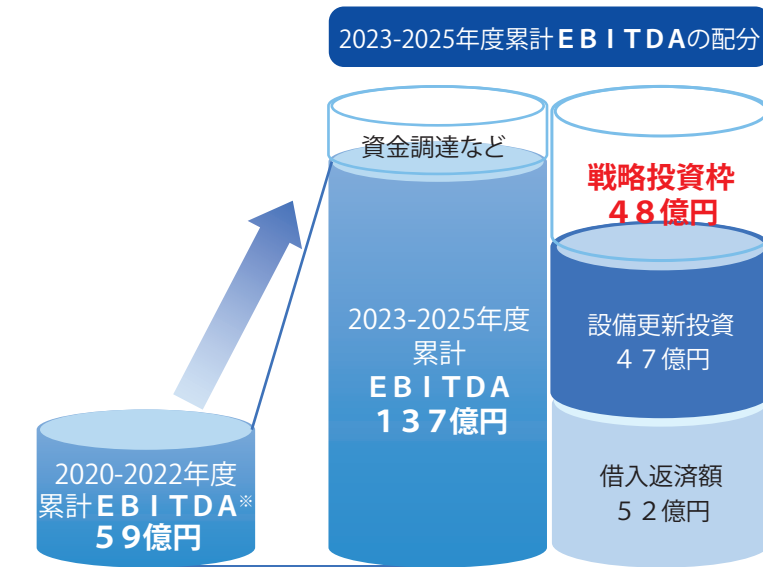
- 事業全体で創出するEBITDAを原資に、**戦略投資枠を設定**し、成長投資を実行
- 戦略投資により、将来の成長を加速し、**さらなる戦略投資枠の拡大**と、**早期復配**を果たす



## 中期経営計画(2023~2025年度)の概要

### ■ 資源配分

- 本計画期間において事業全体の「稼ぐ力」を強化し、3カ年累計EBITDAは**137億円**となる見込み
- 借入金返済・設備更新を除く部分については**戦略投資枠**とし、成長の原資として配分する



※EBITDAは「営業利益」+「減価償却費」

### 3年間で48億円の戦略投資枠

#### 設定設備投資(既存拡大・新規)

- ・マテリアルリサイクルへの参入
- ・廃棄物燃料化設備の増強・新設
- ・苫小牧発電所の発電性能向上

#### 研究開発投資

- ・太陽電池モジュールリサイクル実証

#### 人的投資

- ・高度専門人材の確保
- ・積極的人材採用、育成

#### M & A・提携

- ・成長の加速(エリア・サービス拡大)
- ・シナジー創出

#### IT投資

- ・サイバーセキュリティの強化
- ・BI/RPA等のツール活用による業務効率化

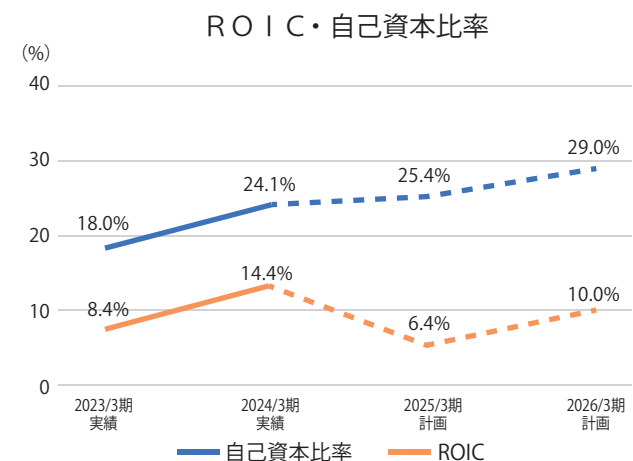
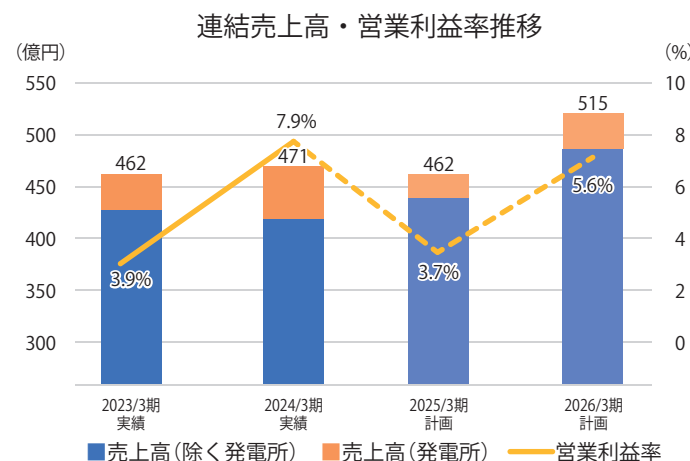
### ■ 中期経営計画(数値計画)

2024年5月15日に中期経営計画における2025年3月期および2026年3月期の数値目標を見直しました。

(単位:百万円)

	2023/3期 実績	2024/3期			2025/3期 計画	2026/3期 計画
		計画	実績	差異		
売上高	46,277	47,965	47,167	△797	46,246	51,500
営業利益	1,785	3,231	3,744	+512	1,715	2,800
EBITDA*	3,674	4,800	5,398	+598	3,500	4,900
ROE	24.6%	35.0%	36.1%	+1.1	11.6%	17.0%
ROIC	8.4%	14.0%	14.4%	+0.4	6.4%	10.0%
自己資本比率	18.0%	22.0%	24.1%	+2.1	25.4%	29.0%

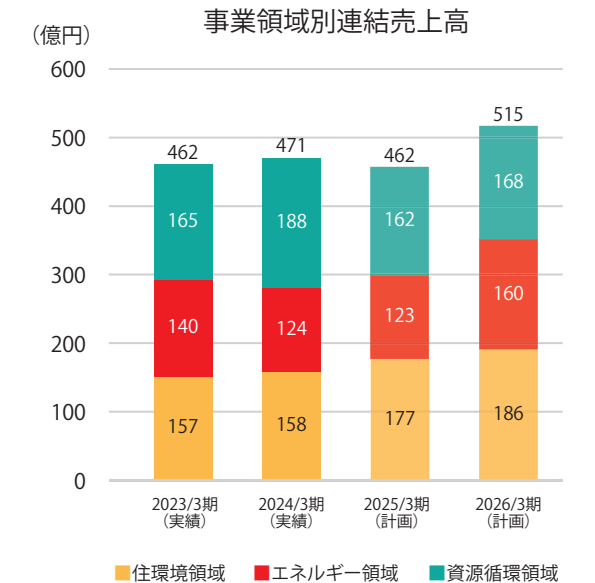
※EBITDAは「営業利益」+「減価償却費」



### ■ 事業領域別売上高・営業利益計画

(単位:百万円)

	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 計画	2026/3期 計画
売上高	46,277	47,167	46,246	51,500
住環境領域	15,751	15,824	17,704	18,600
エネルギー領域	14,007	12,455	12,320	16,000
資源循環領域	16,518	18,886	16,221	16,800
営業利益	1,785	3,744	1,715	2,800
住環境領域	1,421	1,724	2,379	2,500
エネルギー領域	261	377	252	1,000
資源循環領域	3,153	4,722	1,863	1,800
配賦不能	△3,050	△3,079	△2,780	△2,500



## Topic 事業化に向けた研究開発 ~ 使用済み太陽光パネルのリサイクル実証を開始 ~

2030年代に使用済みの太陽光パネルが大量に発生する見通しを前提に、太陽光パネルの知見と産業廃棄物の処理ネットワークを持つ当社の強みを生かし、**太陽光パネルのリユース・リサイクル事業の事業化を目指し、技術検証ラインを構築。**

### 国内における排出量予測

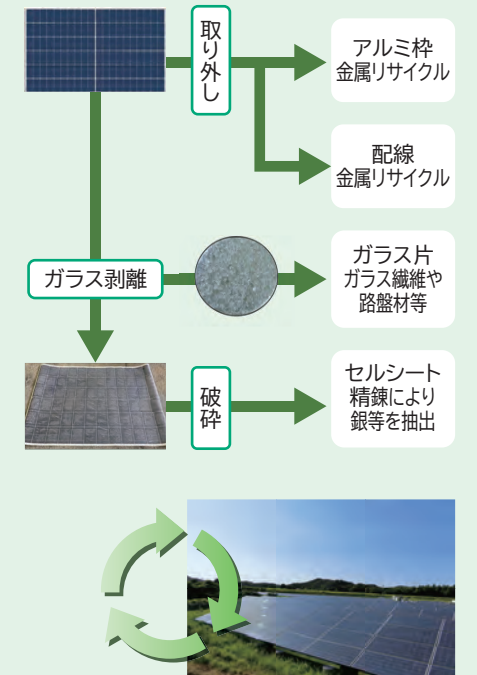
- 2030年代において、
  - FIT期間の終了
  - パネル寿命
- 等の要因でパネル排出量が急激に増加する見通し

太陽光発電事業にて積み上げた膨大な太陽光パネル出荷実績

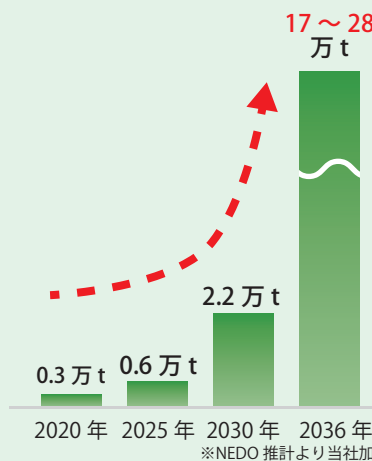
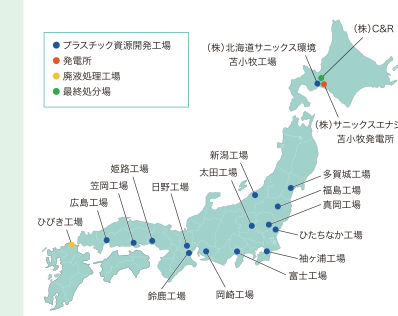
- 住宅用: 約2万件
- 事業用: 約2.9万件
- 累計1.4GW
- 約500万枚のパネル累計出荷実績

2024年3月末現在

### パネルリサイクルイメージ



### 全国で展開している産業廃棄物処理・リサイクル拠点網の活用





# 住環境領域の価値創造ストーリー



住宅の木材の腐朽やシロアリの被害、ビル・マンションの給排水管の劣化など、目に見えないところに、大切な建物の寿命を縮める要因が潜んでいます。

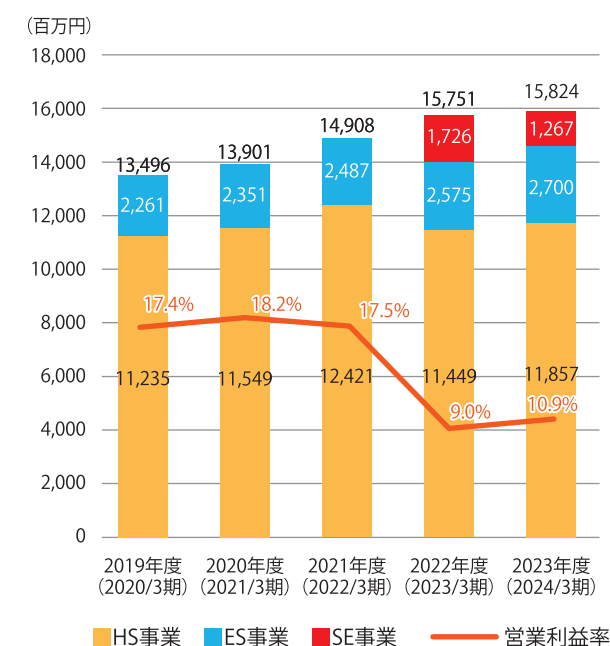
サニックスグループでは、「予防医学(未然に防ぐという思想)」の見地から、トータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

## 住環境領域実績

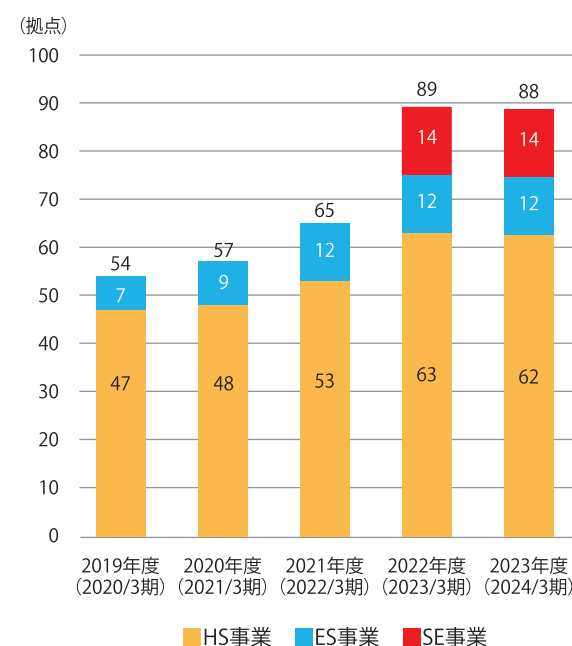
(単位:百万円)

	2019年度 (2020年3月期)	2020年度 (2021年3月期)	2021年度 (2022年3月期)	2022年度 (2023年3月期)	2023年度 (2024年3月期)
売上高	13,496	13,901	14,908	15,751	15,824
売上総利益	7,935	8,362	8,995	8,822	8,867
(売上高総利益率)	58.8%	60.2%	60.3%	56.0%	56.0%
営業利益	2,343	2,525	2,609	1,421	1,724
(売上高営業利益率)	17.4%	18.2%	17.5%	9.0%	10.9%

## セグメント別売上高・営業利益



## セグメント別 営業拠点数



## 主な商品・サービス

### ホーム・サニテーション(HS)事業

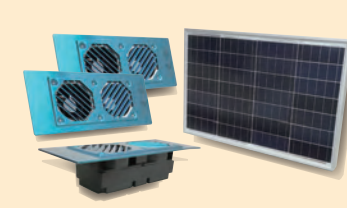
#### シロアリ防除システム

シロアリの習性を熟知したスタッフは、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



#### 床下・天井裏換気システム

太陽光を利用した床下・天井裏換気扇が、床下・天井裏の湿気を追い出し、風の通り道をつくれます。換気効果を高める拡散ファンや床下調湿材もとろそろえ、心地よい暮らしを実現するとともに、住まいの耐久性を高めます。商用電源タイプも。



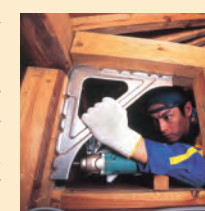
#### 基礎補修工事

基礎コンクリート表面に、アラミド繊維シートを樹脂で貼り付け、繊維強化プラスチック(FRP)を形成することで、基礎のひび割れを補修するとともに、劣化進行の抑制に寄与します。



#### 家屋補強システム

床下、天井裏の主要結合部を金物で補強することにより、家屋の耐震性・耐久性を向上させるサニックス独自のシステム。大掛かりな外壁工事を行わず、工期短縮を実現しました。



#### 住宅リフォーム

水周りの改善やバリアフリー化、外壁・屋根・クロス等のリフレッシュ、耐震改修工事など、ライフスタイルやご要望に合わせた快適リフォームをご提供します。

### エスタブリッシュメント・サニテーション(ES)事業

#### 給排水設備の保全対策

給排水設備メンテナンスの効率的一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油污の除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。

マイナス帯電水生成装置(防錆装置)



内視鏡による給排水管内部の検査

#### 有害生物の防除

高度な専門技術により、ゴキブリやダニ、ハエ、カ、ネズミなどの害虫・害獣防除、害鳥侵入防止施工を行い、病原菌の媒体となる有害生物をシャットアウトします。



害虫防除施工

#### HACCPに沿った衛生管理サポート

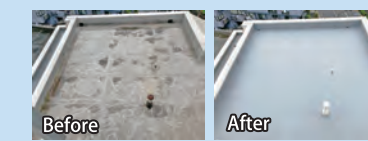
飲食店や食品工場など、食品を扱う事業者には、HACCP(衛生管理手法)に沿った衛生管理が義務付けられています。専門的視点で、衛生管理計画の作成から運用までサポート。定期的な衛生点検および、その結果に基づく改善指導も行います。

ATP拭き取り検査(清浄度の確認)



#### ビル・マンションのメンテナンス

水回りの衛生管理、屋上の防水処理、外壁の塗装・洗浄・補修など、トータルに管理します。



### ソーラー・エンジニアリング(SE)事業

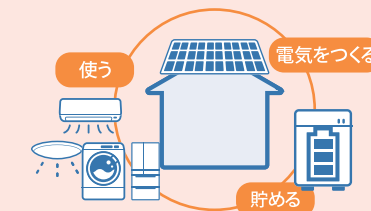
#### 住宅用太陽光発電システム

太陽光発電の普及を目指して、できるだけ価格を抑えて提供し、環境にも家計にも優しい生活を実現します。



#### 蓄電システム

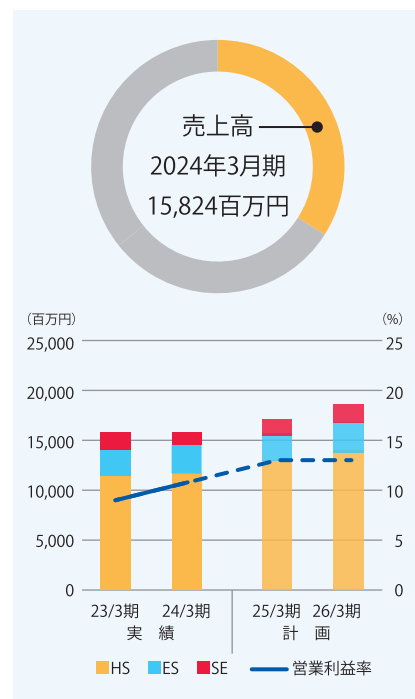
自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。



## 住環境領域の価値創造ストーリー (成長戦略)

- 法人営業 (業務提携先の開拓) 体制の強化
- 提携先拡大による新規顧客チャネルの拡充と営業生産性の向上
  - 人員確保と育成強化による営業力・サービス品質の向上

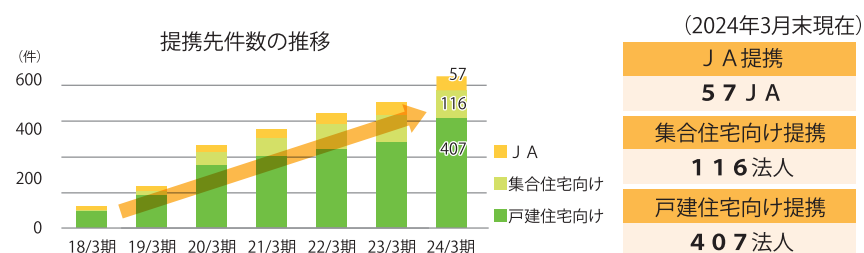
<セグメント別 中期経営計画>



(単位:百万円)

	2023/3期実績	2024/3期実績	2025/3期計画	2026/3期計画
連結売上高	15,751	15,824	17,704	18,600
HS	11,449	11,857	13,318	14,000
ES	2,575	2,700	2,800	3,000
SE	1,726	1,267	1,586	1,600
連結営業利益	1,421	1,724	2,379	2,500

- 2026年3月期の売上高は、2023年3月期に対して28億円増加し、186億円となる。
- 営業利益は、人員増加によって人件費等は増加するが、生産性の向上による利益率改善によって25億円を見込む。
- 人員数は3年間で約170名増加し、1,200名超を見込む。



<当社の強みと外部環境>

### <当社の強み>

- お客様との継続的な取引関係をベースとした安定的な収益基盤
- 高い営業力と施工技術力を併せ持つ人員体制
- 地域に根差した営業拠点網

### <外部環境>

- 良質な住宅ストックを形成し、住宅リフォームや既存住宅流通等の住宅ストック活用を重視する政府方針へ
- コロナ禍を経て生まれた住宅メンテナンス・衛生環境に関する需要の拡大
- 電気料金の高騰、環境意識の高まりから住宅用太陽光ニーズ拡大

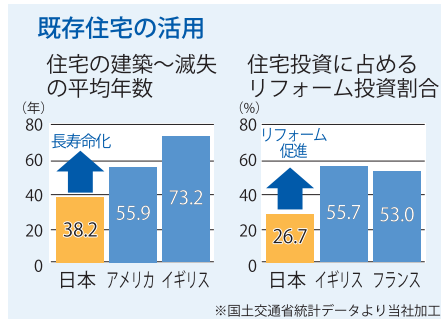
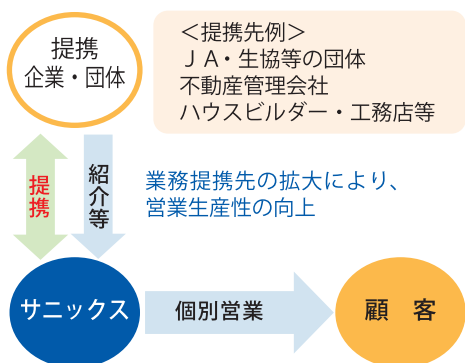
## 住宅政策の動向

住宅総数:約6,500万戸 内、木造一戸建:約3,000万戸 (空き家含む)

- 人口減少等を背景に新築着工件数は縮小していく見通しである中、既存の住宅を良質化し、**既存住宅の活用を重視する方針**に転換
- 加えて、脱炭素の観点から**省エネルギー化**を進める方針

## 法人営業の強化

これまでの個別訪問の営業スタイル強化に加え、**法人営業体制を拡充**し、営業の間口を広げるとともに、多様なニーズへの対応を図る。



**脱炭素化の推進 (省エネルギー化)**

- 太陽光発電
- 蓄電池
- 断熱性能向上 (窓・断熱材等)

義務化の流れ、支援(補助金)制度の拡充等により新築・既築ともに市場活性化

## お客様のお声

祖業であるHS事業 (戸建住宅向けサービス) では、1975年の創業以来、80万軒を超えるお客様のお家のシロアリ防除をさせていただいています。シロアリ消毒の保証期間中 (5年間) には、年1回の定期点検を実施し、安心感のお届けに努めています。

定期点検やシロアリ消毒等に対する、お客様のご意見の一部をご紹介します (順不同)。多くのお客様に支えられていることに感謝し、これからもご満足いただけるサービスの提供に努めてまいります。



### 画像で、我が家の現状がよくわかりました

ていねいにすみずみまで画像を撮られて説明を受けましたが、とても感動しました。とにかく画像の説明がていねいでした。我が家の現状も良くわかりましたし良かったと思います。 山口県 U様 (2024年6月)

### 水漏れも発見できて助かりました

今日点検して頂いたお蔭様で床下の水漏れまで発見でき、本当に助かりました。隅々まで点検して頂きありがとうございました。 鹿児島県 T様 (2024年3月)

### マナー、説明、すべてに満足

つくづくサニックス社のすばらしさを再認識させていただきました。マナーといい、報告書の説明といい、すべてに満足しました。今後ともよろしくお願ひ致します。 長崎県 K様 (2024年2月)

### 誠実な姿勢に感心

誠実で終始一貫した姿勢にいつも感心させられます。ありがとうございました。今後ともこのような社員の方が安心して働けるような環境づくりをお願いします。 岡山県 H様 (2024年1月)

### シロアリ予防をお願いする時はサニックスさんに

とても丁寧に見ていただきました。床下のゴミまで拾って頂きました。点検後も契約を強くすすめる事もなく、家族とどうするか相談する時間を持たせてと思います。今すぐ契約する事ができませんが、シロアリ予防を今後お願いする時はサニックスさんにしようと思います。点検していただきありがとうございました。 福岡県 T様 (2024年1月)

### 心のこもった商売を次の世代まで

社員の皆様のご親切大変よく、こんな会社あるのかと思いました。世の中も昭和の時代からずっと変わって来ましたが、心のこもったご商売を次の世代まで続けて頂きたいです。ありがとうございました。 岐阜県 S様 (2023年10月)

### 業者選びに悩んでいる方に紹介できます

白ありに悩んでいても悪い業者にだまされるのが心配で一步ふみ出せないでいましたが、そういう悩みを持っている方にも紹介できます。これから5年間点検に来て下さると言う事でひと安心です。これからもサニックスさん応援しています。ありがとうございました。 宮崎県 T様 (2023年12月)

### 点検にも説明にも満足

丁寧な点検作業で感心致しました。状況説明にも満足致しました。 滋賀県 O様 (2023年12月)

### 安心度100%

工事の説明及び作業と作業後の説明もわかりやすく話をしてもらい大変安心しました。サニックス様の安心度は100%です。これからも相談しやすいですのでよろしくお願ひ致します。ありがとうございました。 茨城県 Y様 (2024年4月)

### 教育が行き届いているのを感じました

お世話になりました。施工に来てくださった社員さん達皆様の教育が行き届いているのを感じました。挨拶がしっかりと出来ていて受け答えが爽やかでした。頑張っていて欲しいですね。あと快適に過ごせるか楽しみです。 香川県 T様 (2023年9月)

### わかりやすく教えていただけました

床下の状況や、シロアリが入ってしまった際の大変さをとても分かりやすく教えていただけました。暑い中、本当にありがとうございました。また1年後の点検でお世話になります。 広島県 U様 (2023年8月)

# エネルギー領域の価値創造ストーリー



**確かな技術と積み上げてきた実績、  
太陽光発電の調達から、販売、施工、メンテナンスまで、  
トータルサービスで、エネルギー新時代を支える。**

脱炭素への取り組みは、いまや人類全員の共通課題です。日本においても、2050年カーボンニュートラル宣言以降、その流れは加速しています。

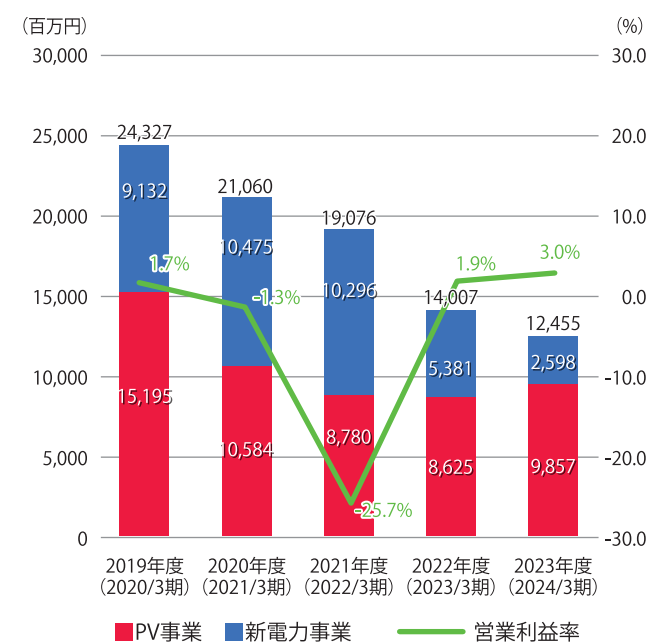
私たちは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案。導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

## ■ エネルギー領域実績

(単位:百万円)

	2019年度 (2020年3月期)	2020年度 (2021年3月期)	2021年度 (2022年3月期)	2022年度 (2023年3月期)	2023年度 (2024年3月期)
売上高	24,327	21,060	19,076	14,007	12,455
売上総利益	4,236	3,252	△1,859	2,348	2,450
(売上高総利益率)	17.4%	15.4%	△9.7%	16.8%	19.7%
営業利益	416	△279	△4,908	261	377
(売上高営業利益率)	1.7%	△1.3%	△25.7%	1.9%	3.0%

## ■ セグメント別売上高・営業利益



## 主な商品・サービス

### ■ PV (法人向け太陽光発電) 事業

#### 太陽光発電システム

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。自家消費型システムを中心に、太陽光発電による資産管理、コスト(電気代)削減、災害対策、環境経営をお手伝い。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



### ■ 新電力事業

#### 電力小売

2001年に特定規模電気事業者(電力小売)として登録し、2015年に経済産業省に登録小売電気事業者として登録(登録番号:A0057)。太陽光発電事業と電力販売は親和性が高く、シナジー効果で、幅広いサービスの提供を可能にします。

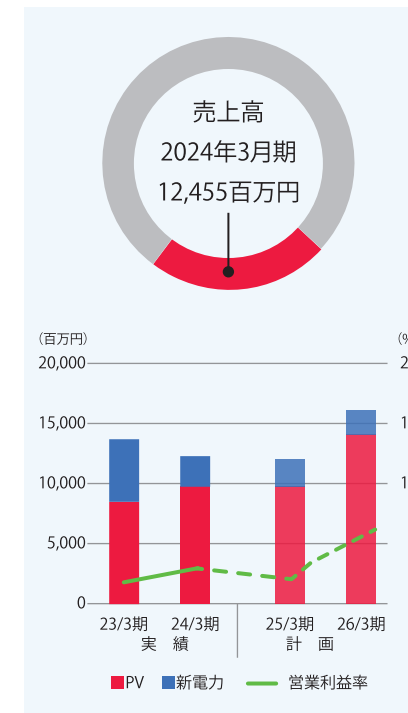
## エネルギー領域の価値創造ストーリー (成長戦略)

非FITモデルへの完全移行

- ・脱炭素の取り組みを強化する企業・自治体向けに、自家消費型太陽光の提案体制強化・エリア拡大
- ・再エネ電力を供給するエネルギー事業者向けに、再エネ電源としての太陽光発電所開発を推進

<セグメント別 中期経営計画>

(単位:百万円)



	2023/3期実績	2024/3期実績	2025/3期計画	2026/3期計画
連結売上高	14,007	12,455	12,320	16,000
PV	8,625	9,857	9,884	14,000
新電力	5,381	2,598	2,436	2,000
連結営業利益	261	377	252	1,000

- 2026年3月期の売上高は、脱炭素ニーズの拡大を背景としたPV事業の成長により、160億円を見込む。
- 新電力事業は事業構造の転換が完了し、売上規模はほぼ半分になる。
- 営業利益は、2024年3月期まで材料費等の高騰の影響が大きいものの、徐々に利益率が改善。

脱炭素社会の実現に向けて、多くのお客様へ自家消費型太陽光発電設備を導入(下記はその一部)



## <当社の強みと外部環境>

### <当社の強み>

- 太陽光発電システムの調達・販売・施工からメンテナンスまでの一貫したサービス提供能力
- 電力の知見を活用した最適な自家消費提案能力
- 豊富な有資格者、技術者による高い施工品質
- 約29,000件に及ぶ事業用太陽光発電所建設実績

### <外部環境>

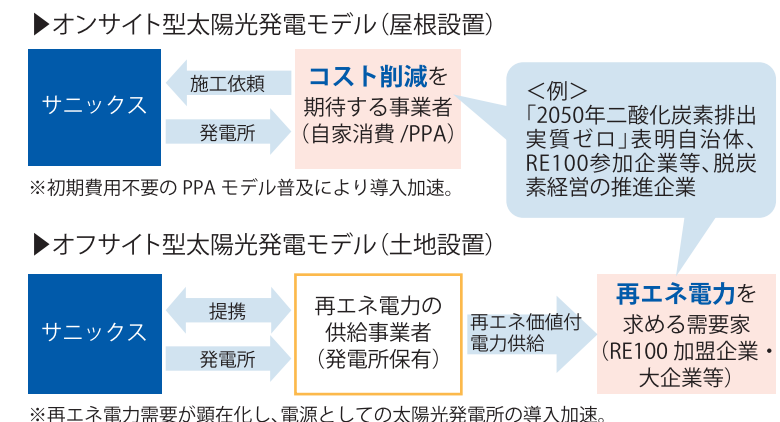
- 電力料金の高騰と太陽光発電設備のコストダウンによる設備導入効果の向上
- 再生可能エネルギー需要の顕在化に伴い、電力事業者等の再エネ電源ニーズの高まり
- 企業におけるGHG排出量削減や、地域でのゼロカーボンシティに向けた取り組みが本格化

### FIT制度を前提とした従来モデル



※買取価格の下落とともにFITの魅力が大きく低下。

### FIT制度によらない新しい普及モデル



# 資源循環領域の価値創造ストーリー



「静脈産業」の一員として  
地球環境と産業発展の調和を目指す。



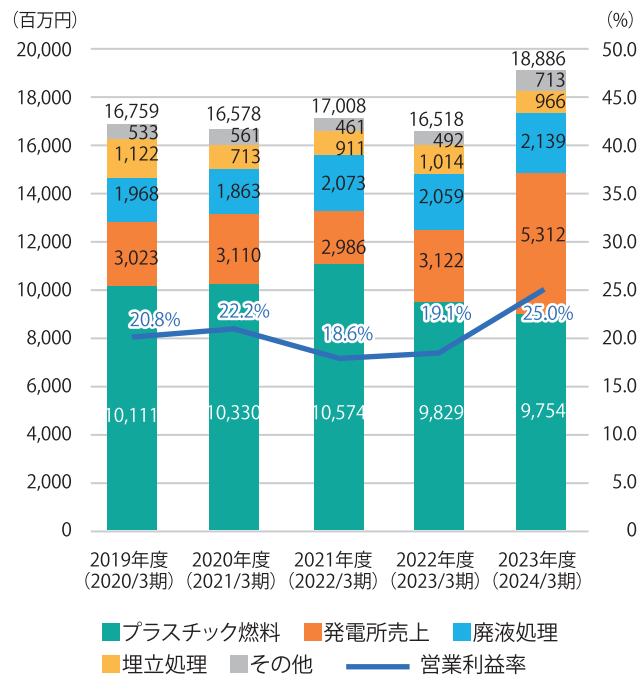
持続可能な社会づくりが社会共通の課題となる今、産業廃棄物の適正処理・リサイクルは、重要なテーマです。当社グループでは、廃プラスチックの燃料化リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化およびリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

## 資源循環領域実績

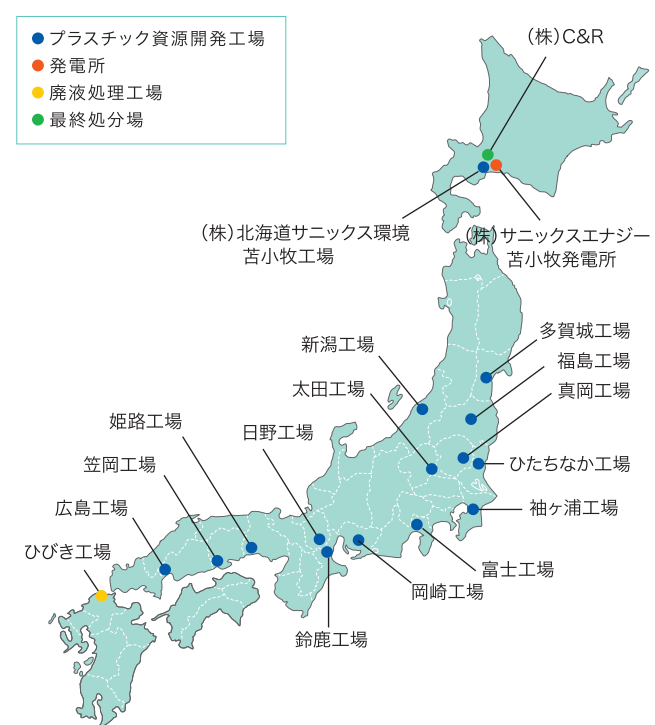
(単位:百万円)

	2019年度 (2020年3月期)	2020年度 (2021年3月期)	2021年度 (2022年3月期)	2022年度 (2023年3月期)	2023年度 (2024年3月期)
売上高	16,759	16,578	17,008	16,518	18,886
売上総利益	5,384	5,538	4,957	5,037	6,784
(売上高総利益率)	32.1%	33.4%	29.2%	30.5%	35.9%
営業利益	3,483	3,673	3,158	3,153	4,722
(売上高営業利益率)	20.8%	22.2%	18.6%	19.1%	25.0%

## 事業別売上高・営業利益



## 環境資源開発事業関連工場



## 主な商品・サービス

### 環境資源開発事業

#### 廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場を全国各地に15工場展開しています(プラスチック資源開発工場)。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として活用するサーマルリサイクルを推進します。



プラスチック資源開発工場

#### 廃液の処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑排水ピットなどから排出される廃液を一度に大量に受け入れられる体制を整えており、船舶での受け入れも可能です。廃液を一連の水処理工程にかけることにより、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また廃液に含まれる油分や汚泥の再生・再利用も推進しています。



ひびき工場(廃液処理工場)

#### 資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場にて加工、燃料化したプラスチックを発電施設のエネルギーとして利用する資源循環型発電システム(下図参照)。石炭と比べて発熱量が高く、CO<sub>2</sub>排出量や焼却灰発生量が少ないなど、環境負荷も少なく、付加価値が高い電気エネルギーの供給が可能です。非化石電源として非化石証書も発行されます。



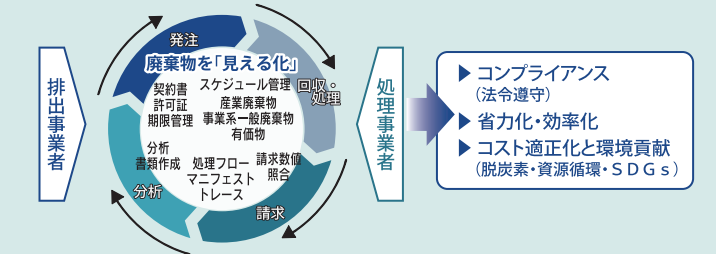
サニックスエナジー苫小牧発電所



最終処分場(株式会社C&R)

#### 廃棄業務一元管理システム

廃棄業務を「見える化」するシステムの提供により、適正で効率的な業務遂行をサポート。排出事業者向け、収集運搬業者向け、中間処理業者向けの3システムをラインナップしています。



システムの概要図(排出事業者向け)

## ~廃プラスチックの回収・燃料化から発電まで~ 資源循環型発電システム

廃プラスチックの有効利用を促進し、  
循環型社会の構築に貢献します。

- 化石燃料の消費を抑制
- CO<sub>2</sub>フリー電力による脱炭素社会への貢献
- 最終処分場の残余年数を延ばす

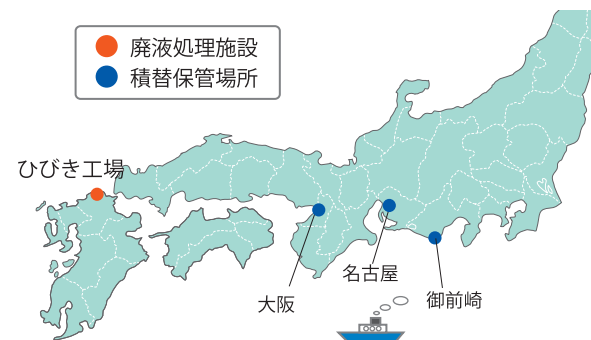




### 微生物などによる廃液浄化処理、油分や汚泥のリサイクルも

資源循環型発電事業(プラスチックの燃料化および当該燃料による発電)と並ぶ、もう一つの資源循環事業として、廃液の浄化処理に取り組んでいます。

廃液処理工場、ひびき工場(福岡県北九州市/2000年稼働開始)は、廃液のみを処理する施設として、国内で最大規模。食品工場から排出される有機廃液や、その他工場から排出される無機廃液などを、1日あたり1,300m<sup>3</sup>処理できます。船舶による大量受け入れ、貯留タンク4,800m<sup>3</sup>による短期間での受け入れに対応しています。



※船舶と積替保管は、弊社の協力会社が行っています。

### 廃棄物由来燃料「再生油B i o」の製造ラインを増設

資源循環型社会の実現を加速するために、廃液から油分を分離した、再生油(製品名:再生油B i o)を製造・販売しています。

ニーズの高まりを受け、製造ラインをこれまでの2倍に増設しました(2024年3月)。

**製造能力 2,160t/年 ▶ 4,320t/年へ**

#### ▶ 再生油B i o

外食チェーン等の飲食店から発生する廃水や汚泥などの産業廃棄物から、ゴミや汚泥分を除去し、油分のみを分離回収することで、化石燃料の代替燃料として利用可能にした再生燃料です。動植物性由来の油分を原料とする、カーボンニュートラルの実現に貢献できる燃料であるとともに、未利用資源の活用により、「産業廃棄物の削減」と「再資源化」の両面を実現した製品です。



原料となる産業廃棄物

再生燃料「再生油Bio」

#### ▶ 3つの公的な評価を頂いています

当社は、「産業廃棄物からリサイクルした環境にやさしい重油代替燃料の開発」について、令和5年度資源循環技術・システム表彰における「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞しました(2023年10月/主催:一般社団法人産業環境管理協会)。

この他にも、環境価値の高さを評価され、「令和3年度北九州エコプレミアム」、「第15回福岡県産リサイクル製品」として認定されています。



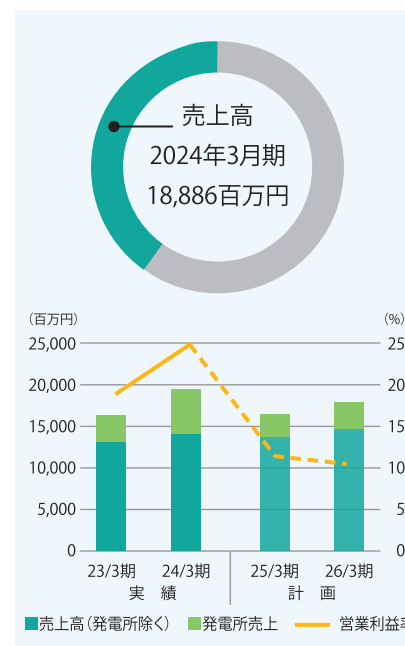
令和5年度資源循環技術・システム表彰式・受賞者発表会(2023年10月20日)宗政寛(当社代表取締役社長:左)、小林出様(経済産業省大臣官房審議官(環境問題担当):右)

### 資源循環領域の価値創造ストーリー(成長戦略)

事業領域拡大、リサイクル技術高度化・多様化のための戦略投資を実行

- ・廃プラスチック処理におけるマテリアルリサイクル開始、廃液処理における燃料化事業の拡大のための投資
- ・持続的な事業基盤を確立するため、計画的な設備更新投資の継続

#### <事業別 中期経営計画>



(単位:百万円)

	2023/3期実績	2024/3期実績	2025/3期計画	2026/3期計画
連結売上高	16,518	18,886	16,221	16,800
プラスチック	10,321	10,468	10,263	10,480
発電所売上	3,122	5,312	2,903	3,130
廃液処理	2,059	2,139	2,335	2,490
埋立処理	1,014	966	718	710
連結営業利益	3,153	4,722	1,863	1,800

- 発電所売上に関して1年目に発電所の売電単価アップにより大きく増収となるが、2・3年目は、売電単価の低下と、本格的な更新工事の開始に伴う稼働日数減少の影響を受け、2026年3月期の売上高は168億円を見込む。
- プラスチック処理については新規案件の受注により徐々に受入量を拡大。
- 廃液処理では2年目より再生油B i oの増産、3年目より汚泥燃料の販売開始を見込む。
- 全体の営業利益では、発電所の売電単価、稼働状況の影響を受けた推移となる。

#### <当社の強みと外部環境>

##### <当社の強み>

- 廃プラスチックのみを燃料とした、特徴的な資源循環型発電モデル(非化石電源)
- 全国15カ所の廃プラスチック中間処理工場網による面での廃プラスチック収集体制
- 実績に裏付けられた高い燃料化・リサイクル処理技術

##### <外部環境>

- サプライチェーン全体における資源循環の要請が高まり、大企業を中心にリサイクル比率の向上に向けた取り組みが拡大
- 地域における適切な資源循環システムの確立が求められる
- 企業のGHG排出量削減、ならびに化石燃料価格の高騰により、廃棄物由来の再生燃料需要が拡大

#### 廃棄物・資源循環政策の動向

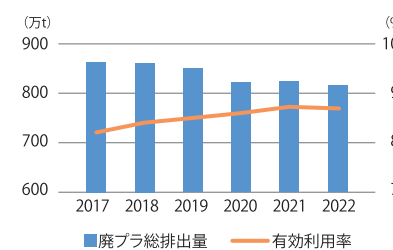
資源を廃棄せずに循環させる循環経済に向けた方針が強化。特にプラスチック資源に関する循環の促進が図られる。

- プラスチック資源循環戦略の策定
- プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律(プラ新法)の施行
  - ✓ 2035年までに使用済みプラスチックを100%リユース・リサイクル等に有効利用
  - ✓ 2030年までに再生利用を倍増

あらゆる主体(製品の設計から排出されたプラスチックの処理まで)におけるプラスチック資源循環の取り組みを促進するための措置が講じられ、排出事業者も積極的に排出の抑制、再資源化への取り組みが求められる。

#### 廃プラスチックの排出動向

廃プラの排出量は徐々に減少する一方で、有効利用率は上昇傾向(2020年〜コロナ影響)。



	2017	2018	2019	2020	2021	2022
廃プラ総排出量(万t)	863	861	850	822	824	823
有効利用率(%)	82	84	85	86	87	87

#### マテリアルリサイクルへの取り組み開始

リサイクルの高度化により、市場ニーズへの対応と対象領域の拡大を目指す。





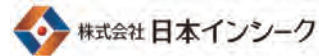






※四捨五入の関係で、内訳合計と総数が一致しない場合があります。

※いずれも、「2022年プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」(一般社団法人プラスチック循環利用協会)をもとに当社加工。

## 廃棄業務一元管理システム「一元くん」シリーズの販売開始

2022年度より提供を開始した「廃棄業務一元管理システム」に、あらたに中間処理事業者向けの商品を追加し、商品名を「一元くんシリーズ」として、販売を開始しました。各種業務の省力化・効率化、「見える化」によるコストの適正化・環境貢献が可能となり、あらゆるシーンに対応するシステムです。ご利用者にはご好評いただいております。さらなるご利用者拡大を図ります。

 <p>排出事業者向け SANIX system改め 「環境エース一元くん」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物の回収・処理の流れ、量やリサイクル率など、廃棄物のすべてを「見える化」し、適正で効率的な業務遂行を実現するシステム</li> </ul> <p>2022年4月1日 販売開始 (旧商品名:「SANIX system」)</p>	<p>製造業やサービス業をはじめ、さまざま業種の事業者様に導入をいただいております。</p>  株式会社 大紀アルミニウム工業所   東洋   お米となかよし 岩塚製菓  株式会社 日本インシーク  ハイビック株式会社  株式会社 ソーゴ   株式会社 アイワコーポ <p>※導入先の一部を記載(順不同)</p>
 <p>収集運搬業者向け SANIX system pro改め 「収運エース一元くん」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般廃棄物に関する契約、受付、配車、収集運搬、車両管理、各種集計といった、収集運搬業務を「見える化」し、適正で効率的な業務遂行をサポートするシステム</li> </ul> <p>2023年5月1日 販売開始 (旧商品名:「SANIX system pro」)</p>	
 <p>中間処理事業者向け 「産廃エース一元くん」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 見積書の作成、マニフェスト作成、入金・支払い管理といった、中間処理業務をデジタル化し、適正で効率的な業務遂行をサポートするシステム</li> </ul> <p>2024年5月15日 販売開始</p>	

「環境エース一元くん」および「収運エース一元くん」の名称変更は、廃棄物関連の一元管理システムにおけるブランディングを刷新するために、社内公募で案を募り、決定しました。これは、社員の意見を尊重し、社内のコミュニケーションを活性化するための取り組みの一環です。

## 持続的成長を支える経営基盤



## ビジネスチャンスの拡大: 展示会への積極的な出展

持続可能な社会づくりが世界共通の課題となる今、産業廃棄物の適正処理・リサイクルは、重要なテーマです。当社グループは、環境関連の展示会に積極的に出展し、廃プラスチックの燃料化リサイクルや、食品工場等から排出される廃液の浄化などの取り組みを紹介しています。同じ思いを持った共創相手を見つけ、事業を通じて一緒に脱炭素社会ならびに資源循環型社会の実現に貢献します。

出展に関する情報	
2023年	
3月	● 脱炭素経営 EXPO【春】
5月	● 2023 NEW環境展
10月	● ぶくしま再生可能エネルギー産業フェア
11月	● ビジネスマッチング東北2023 メッセナゴヤ2023
	● 脱炭素経営 EXPO (関西)
12月	● フードテックジャパン
2024年	● ぐんま環境フェスティバル
1月	● 彩の国ビジネスアリーナ2024
2月	● SDGs・ESG支援 EXPO 春
5月	● 2024 NEW環境展



- 事業活動におけるサステナビリティ
- 人に関するサステナビリティ
- 社会貢献活動
- サステナビリティデータ
- マネジメント体制
- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス・リスク管理

## 事業活動におけるサステナビリティ

サニックスグループは、事業活動によるお客様への価値提供を通じて社会課題の解決を図ることを価値創造モデルとしており、このビジネスモデルによって、「次世代へ快適な環境を」という企業理念を実現してまいります。

### ■数字で見るサニックスグループ

(2024年3月末現在)



シロアリ消毒施工軒数

約 **835,000** 軒



給排水管維持管理施工件数  
(防錆機器設置等)

約 **39,000** 件



太陽光発電販売・施工件数(自社施工分)

約 **50,000** 件

(うち住宅用約 20,000 件)

容量で約 1.4GW(原発 1 基相当)



ペストコントロール施工軒数  
(事業所向け害虫・害獣防除)

約 **34,000** 軒



廃液処理量

約 **2,600,000** トン



資源循環型発電

プラスチック処理量

約 **6,200,000** トン

苫小牧発電所発電量

約 **5,300,000** MWh



ユース世代のスポーツイベント歴代参加者数  
(ラグビー・サッカー・ハンドボール・新体操・柔道)

**43** カ国・地域から約 **55,000** 人

### ■有事における社会貢献活動

自然災害に代表されるような災害、事故の発生時には、サニックスグループのノウハウ・知見を活かした活動により、地域・社会に貢献しています(以下は、その一例です)。

1982年7月(昭和57年)	長崎大水害	浸水家屋、ゴミ捨て場のゴミの防疫消毒実施
1993年8月(平成5年)	鹿児島大水害	家屋および周辺の防疫消毒実施
1995年1月(平成7年)	阪神大震災	避難所、トイレ等の防疫消毒実施(下記写真①)
1997年1月(平成9年)	ナホトカ号重油流出事故	回収された重油、約1万トンの処理を実施(下記写真②)
2010年(平成22年)	口蹄疫の流行	感染拡大防止のため通行車両消毒の実施(下記写真③)
2011年(平成23年)	東日本大震災	盛岡市被災地支援施設建設プロジェクトにて、大槌町集会所に太陽光発電システム提供(下記写真④)
2014年~(平成26年)	デング熱国内感染発生	デング熱の国内発生を受け、2016年より野外コンサート会場の蚊対策を毎年実施
2017年~(平成29年)	ヒアリの国内発生	2017年以降国内でのヒアリ確認情報が相次ぐ福岡の港湾物流倉庫にてヒアリ生息調査実施
2017年(平成29年)	九州北部豪雨	被災地住宅の床下泥土除去・清掃・消毒等の復旧支援活動を実施(下記写真⑤)
2020年(令和2年)	新型コロナウイルス	新型コロナウイルス感染者発生施設における消毒実施
2020年(令和2年)	令和2年7月豪雨	豪雨被害を受けた小学校(大分県九重町)の復旧工事(2021年1月~3月)において、校舎および体育館の床下殺菌消毒を実施(下記写真⑥)
2021年(令和3年)	令和3年8月豪雨	佐賀県武雄市の災害ボランティアに、当社武雄工場の社員が参加



阪神大震災時、防疫ボランティアを申請し、西宮市で避難所の防疫消毒を実施(1995年)。



ナホトカ号重油流出事故による重油処理に対し、海上保安庁より感謝状授与(1998年)。



宮崎県都農町にて、通過車両等の殺菌消毒工を実施(2010年)。



岩手県盛岡市被災地支援施設建設プロジェクトに協賛し、大槌町の集会所に太陽光発電を提供(2011年)。



福岡県東峰村において、浸水住宅の床下泥土除去・防疫消毒等、復旧支援を実施(2017年)。



大分県九重町にて豪雨災害を受けた小学校の床下殺菌消毒を実施(2021年)。

### ■環境大臣より感謝状授与

「長年にわたり、衛生管理や産業廃棄物のリサイクル、再生可能エネルギーの取り組み、次世代へ快適な環境を継承することに貢献してきた」として、2019年(令和元年)9月、環境大臣より感謝状を頂戴しました。



原田環境大臣(当時)

## 人に関するサステナビリティ(教育)

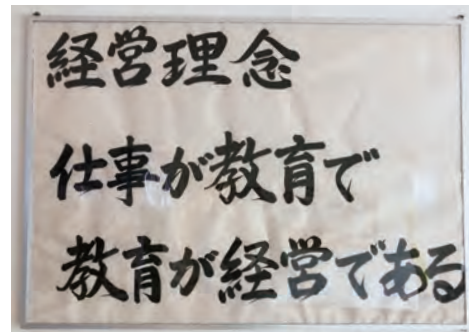
「人が品質」の実現へ。

### 経営理念「仕事が教育で教育が経営である」

サニックスグループは、「仕事が教育で教育が経営である」を経営理念とし、経営戦略の中でも、特に「人づくり」を重点課題の一つとして位置づけています。

創業当初より、「仕事に対する使命感や意欲、豊富な専門知識が不可欠」という考えのもと、社員教育に徹してきました。これは、提供するサービスが、衛生管理や廃棄物リサイクル、エネルギーといった目に見えないものであり、従事する従業員の質がサービスの質に直結するとの考えに基づくものです。

教育専門の部署(人財開発部)および、自社の研修センターを設け、「お客様にご満足のいくサービスを提供し、次世代の快適な環境づくりに貢献できる人財の育成」に努めています。



### 「サニックス総合研修センター」(福岡県宗像市)



自社研修施設「総合研修センター」を有しています。コロナ禍においては、細心の感染防止策を講じての少人数制および、当センターを拠点に各地をオンラインで結んでの研修としています。2021年度～2023年度の3年間で、延べ1,845名の従業員が研修を受けました(計114回の研修)\*。

なお、社内研修期間以外には、外部への貸出も行っており、地域の少年ラグビーチームの宿舎や企業研修の施設としても、活用いただいています。

\*社内にて実施された全研修の累計受講者数。

### 社内教育体系図

種別	研修名	対象者					強化スキル		
		部長	次長 課長	次世代 リーダー (副主任 ~係長)	若手 社員 (2~3年目)	新入 社員	テクニ カル スキル	ヒュー マン スキル	コンセ プチュ アル スキル
階層別研修	部長研修	○						○	○
	次長・課長 研修		○					○	○
	所長・工場長 研修		○					○	○
	次世代リーダー 研修			○			○	○	
新人研修	新入社員導入 研修					○	○	○	
	新卒フォロー 研修				○	○	○	○	
事業別研修	HSスタート 研修					○	○	○	
	HS実務強化 研修				○	○	○	○	
定着・育成	メンター研修 (制度)				○	○	○	○	
その他	実務相談 (フォロー面談)					○			
	eラーニングに よる専門知識	○	○	○	○	○	○	○	



年間で200名以上が受講する新入社員向けの導入研修。サニックス社員として自立するため、理念・ビジョンの浸透だけでなく、「社会人基礎力」も磨く。なお、新規学卒入社者に対しては、合計3回のフォロー研修を実施。



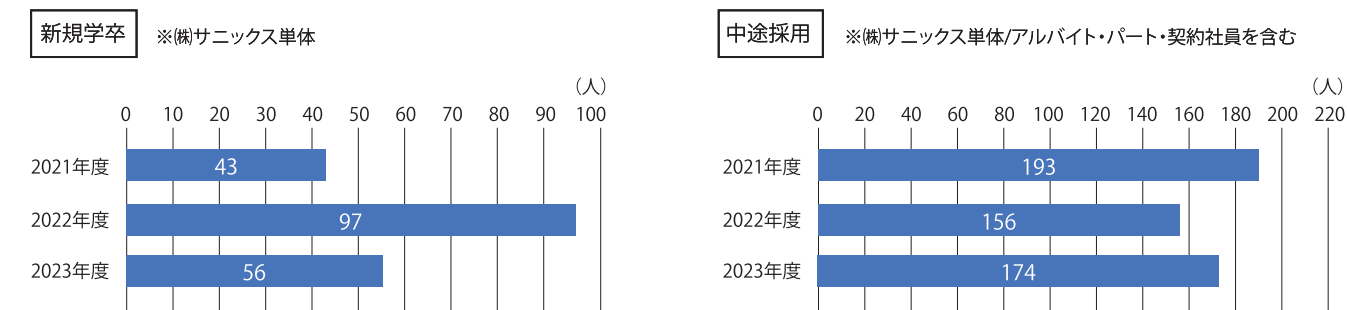
就業から数カ月後に、職種ごとのフォロー研修を実施。この間で生じた問題点や改善点を確認するとともに、新たな目標設定を行う。

## 人に関するサステナビリティ(雇用)

専門家集団を支える雇用体制

### 企業活動の全ては人財にあり。未来を担う人財を創出する。

#### 採用状況(入社数の推移)



#### 多様な雇用サポート体制

##### ▶メンター制度によるサポート

新規学卒の新入社員には、それぞれメンター(支援者)を付帯します。実務教育係ではなく、メンター(新入社員)の心情や悩みなどに対して正面から向き合う心強い存在です。また、コミュニケーション促進のため、定期的なサポート面談を実施し、従業員との交流を促進する仕組みも整えています。



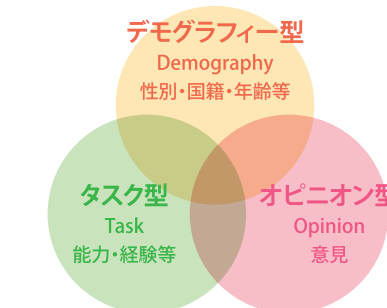
##### ▶定年選択制によるライフプラン形成

「人生100年時代」と言われる中、60歳または65歳の定年選択制を導入しています。定年後の雇用についても、60~65歳の嘱託社員雇用、65歳以降の契約社員雇用など、従業員のキャリアやライフプランの形成に柔軟に対応しています。

#### 社内におけるダイバーシティの推進

本来、ダイバーシティは、デモグラフィック型・タスク型・オピニオン型が三位一体であるのが本質ですが、一般的には、デモグラフィック型のみが先行しがちな側面があります。

サニックスグループでは、目に見えない性質のタスク型、垣根を越えて意見を交わすことを推進するオピニオン型も掛け合わせ、相乗効果を図りながら、ダイバーシティを推進してまいります。



#### 福利厚生など

##### 社員持株制度

従業員が、希望に応じて毎月一定額を拠出し、自社株を持株会が買い付けます。従業員の資産形成を支援するとともに、従業員の経営参画意識を醸成する役割を担っています。

##### 保養施設(ハウステンボス)

九州随一の規模を誇るテーマパーク・ハウステンボス内の宿泊施設に、家族も含めて安価で宿泊する制度を設けています。

##### 資格手当

社内資格および会社が指定する公的資格を対象とし、保有者には継続的に資格手当を支給しています。資格取得を推進し、従業員の新たな知識・スキルの習得を促進します。

##### 福利厚生サービス

業界最大の会員制福利厚生サービスに入会。レジャー、ショッピング、育児、介護、自己啓発など、さまざまな場面での特典のほか、共済会との連携による、独自のサービスも用意しています。

##### 社宅制度

会社指示による異動などに際し、家賃を補助する社宅制度を設けています(各種要件あり)。





# 人に関するサステナビリティ(労働安全衛生)

## 労働安全衛生に関する基本方針

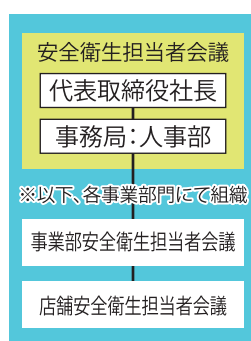
サニックスグループでは、従業員の安全と心身の健康は事業発展の礎であるという考えのもと、安全衛生への取り組みを企業活動の最も重要な基盤の一つと捉えています。安全で快適な職場環境の形成に努め、また、災害、事故の未然防止に向けて積極的に取り組んでまいります。

1. 安全は、事業発展の礎であることを認識し、労働災害ゼロを目指す。
2. 社員一人ひとりが安全確保に取り組み、強固な安全体制を構築する。
3. 安全を支える人材育成を図り、安全風土の形成に努める。

## 安全で快適な職場環境の形成を推進する安全管理体制

### ■安全管理体制組織

安全活動の充実、労働災害の防止および労働安全管理の向上を図ることを目的とした「安全管理規程」を定めています。この規程に則り各事業本部長および管理本部長を管理責任者とする代表取締役直轄の安全管理体制を確立し、業務運営に則した安全対策が実施できるように継続的に改善を行っています。



### ■協力会社との連絡会



建設業における協力会社を対象に労働安全衛生に関する協議の場(集合形式・各協力会社訪問等)を設けています。2023年度は会社訪問あるいは、資料配付を行いました。

## 労働災害に関する目標と実績(2023年度)

### 【基本方針】

社員の安全と健康の確保を企業活動の最も重要な基盤の一つと考え、さらなる安全管理体制を醸成し、「危険ゼロ」を究極の目標として、教育を通じ、サニックスグループ社員の安全と健康意識の高揚を図り、社員の自発的な行動と企業が協力して、安全で快適な職場環境を形成します。

### 【最重点目標】

1. 労働災害による死亡者ゼロ
2. 労働災害による休業4日以上ゼロ
3. 過重労働による健康障害防止のため80時間超ゼロ

### 【最重点施策】

- ・許容できないリスク(休業災害)は許容できるリスク(不働災害)まで低減させる。残留リスクも手当を行う。
- ・全社員を対象とした教育の実施(ハラスメントの発生防止のため、レジリエンス能力が高まる職場形成のため)。
- ・事業場に安全衛生推進者を選任して、包括した労働安全衛生管理を実施させる。
- ・安全衛生教育による危険感受性の高揚と危険敢行性の低下(抑制)を図る。
- ・全社員参画によるサニックス式ヒヤリハット作成の定着と提出された結果の分析および全社への水平展開。
- ・雇用管理責任者の職務を安全衛生推進者が担うための社内教育の実施(一部事業部は対象外)。
- ・安全衛生推進者を通じて心身の問題収拾を迅速化し、ハラスメント等研修を実施し問題を顕在化させ解決に努める。
- ・時間外労働60時間超の撲滅、これを超え過重労働が認められた社員は産業医WEB面談を実施する。また、必要に応じ協力会社を活用するために本社が主体となって、協力会社を増やす。
- ・健診後異常の所見が認められた社員は必要な対応を行うとともに、社員自らも健康増進に取り組む職場環境の整備を行う。
- ・健康防止対策の推進(化学物質等、石綿、粉じん(保護具選定と教育を含む))。

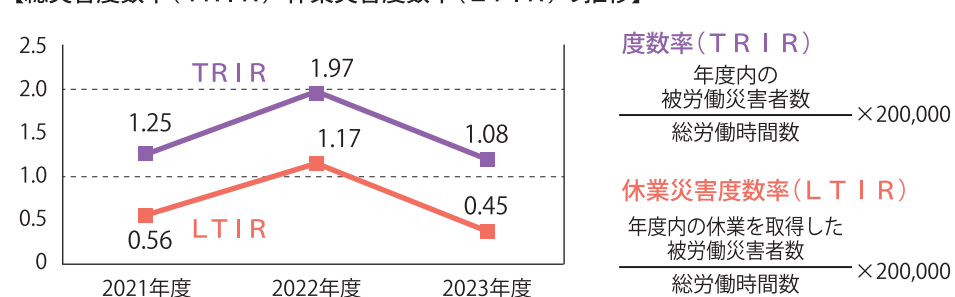
### 【重大災害被災者数】

2021年度	0人
2022年度	0人
2023年度	0人

### 【労働災害による死亡者数】

2021年度	0人
2022年度	0人
2023年度	0人

### 【総災害度率率(TRIR)・休業災害度率率(LTIR)の推移】



## 安全衛生管理活動の事例

### ■ヒヤリハット事例の共有・活用

各事業所で随時記録した事例を事業本部に提出し、共有・分析しています。また、危険度の高い事例は、毎月開催する安全衛生担当者会議で協議し、危険感受性を高めるとともに、対策・ルールの見直し・改善などを行っています。



集まった事例は、毎月、改善策とともに事業部全体で共有(ERD事業部門の例)。

### ■「操業・安全便り」の発行(ERD事業部門)

安全に対する知識習得や安全意識向上を目的に、毎月、安全衛生をテーマに、各種情報を発信しています。



### ■安全大会(ERD事業部門)



工場ごとに安全大会を開催しました(写真は富士工場)。防災、転倒災害防止、高齢労働者の安全対策、重機の安全講習、体力測定など、それぞれに趣向をこらした大会を企画・運営。事故・災害防止への知識と意識を高めました。

サステナブルな組織運営のためには、従業員が心身ともに健康な状態で働くことが重要であることから、メンタルヘルス不調の未然防止に積極的に取り組んでいます。

### ■メンタルヘルスケア

毎年12月に、法定の「ストレスチェック」を、全社員受検可能な体制で実施しています。自身のストレス状態を把握することでメンタルヘルス不調の早期発見・ケアにつなげる他、医師によるカウンセリングの体制も整え活用しています。2023年度は、10名が高ストレスと判断されました。

### ■5S活動

各事業所にて選任された5Sリーダーを中心に、毎月設定したテーマに沿って、5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)に取り組んでいます。

各事業所において取り組んだ活動内容に関する情報を、毎月、各事業本部にて集約。優れた取り組みや他事業所の参考となる取り組みについては、ポスターや社内報などで全事業所に紹介。情報を水平展開し、全社的な改善を図っています。



### ■安全衛生担当者会議(SE・HS・ES事業部門)

各事業所に安全衛生担当者を選出。月1回、地区ごとに、「安全衛生担当者会議」を開催しています。SE・HS・ES事業統括本部の技術部安全衛生指導課および、人事部安全衛生課の担当者も参加し、情報共有に努めています。



オンライン会議を中心として、状況に応じて集合会議も開催。

### ■ケア相談窓口ポスターの作成・掲示

ストレス要因は就業中に限りません。体調不良や家庭での介護によるストレス等さまざまです。社内の人に相談しにくいためにストレスを自身で抱え込むことを防止するために、社外の専門機関と提携し、社員が利用できる窓口を用意しています。ポスターを各事業所に掲示し、相談窓口の利用促進を図っています。



# 人に関するサステナビリティ(顧客満足)

## 顧客満足度向上に向けた施策(顧客満足度調査)

2018年11月に、「CS向上ワーキンググループ」を発足し、顧客満足度の把握・向上に努め、継続的な改善活動に反映させています。

### <顧客満足度把握の取り組み事例>

#### ① 顧客満足度アンケート(はがき・WEBフォーム)

訪問時、お客様にお渡しし回答を依頼する、はがき形式(WEB回答も可能)のアンケートを、SE・HS・ES事業部門で導入しています(その場で回収または、後日投函いただきます)。日常的に実施しているアンケートです。

お寄せいただいた内容は、取りまとめて、毎月1回、従業員にフィードバック(掲示物およびWEB社内報にて)するほか、お客様の声から課題を抽出し施策を講じることで、スパイラルアップを図ります。



#### お客様の声を収集



その場で回収する場合でも、本音で回答しやすい目隠しシール(HS)。



WEBでも回答可能。

#### お客様満足度向上に生かす



◀得られたお客様の声から、課題を抽出し、施策を検討。PDCAのサイクルを回す。

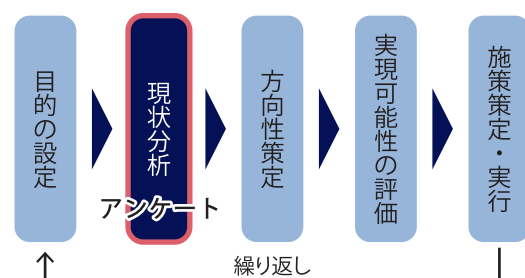


▲お客様の声を、WEB社内報等で、従業員にフィードバック。担当社員の言葉とともに、全社的に共有。

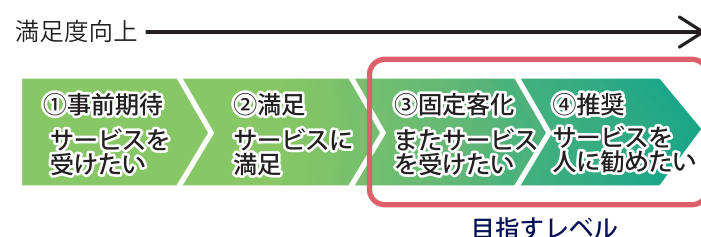
#### ② お客様満足度向上アンケート

2018年度より、戸建住宅向けのお客様に対して、年1回のアンケート調査を実施しています。シロアリ消毒保証期間中のお客様から、ランダムに約5,500名様を抽出(過去に抽出したお客様との重複なし)。郵送およびWEBで回答を収集し、分析しています。得られた回答は、分析を行い、課題を解決する施策を策定・実施することで、以降の業務に反映させています。

#### ■顧客満足度向上のプロセスとアンケートの位置づけ



#### ■目標とする顧客満足度のレベル

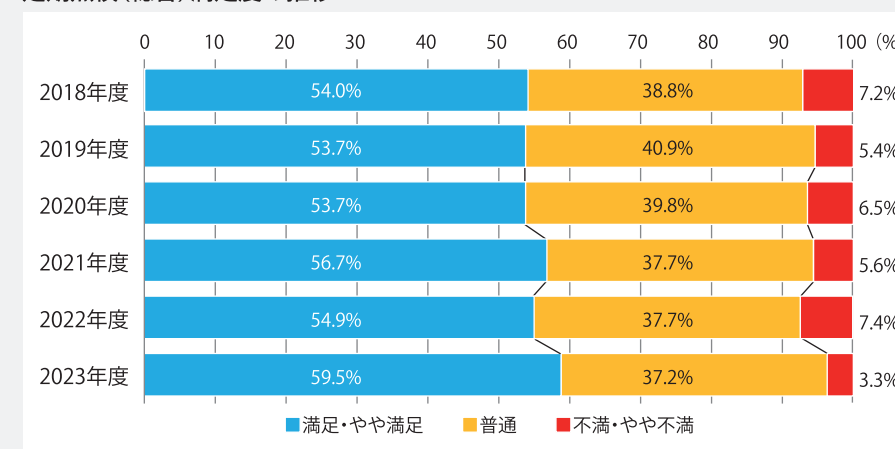


### 「お客様満足度向上アンケート」実施状況

	実施時期	配布数	有効回答数	有効回答率	総合満足度(5点満点での平均点)		
					消毒	定期点検	レポート意向
2018年度	2019年1月	5,373名	1,223名	22.8%	3.83	3.71	4.28
2019年度	2020年1月	5,484名	1,224名	22.3%	3.84	3.71	4.25
2020年度	2021年1月	5,608名	911名	16.2%	3.88	3.72	4.29
2021年度	2022年1月	6,055名	956名	15.8%	3.91	3.78	4.31
2022年度	2023年1月	5,850名	730名	12.5%	3.91	3.71	4.26
2023年度	2024年1月	5,484名	1,169名	21.3%	3.98	3.86	4.32

2023年度については、回収率の向上を目的として、記憶が新しいと思われる、6カ月以内に点検をお受けいただいたお客様を対象に実施しました(2022年度までは、点検からの経過期間の制限は設けず実施)。条件(対象)の属性が異なるため、過去結果との単純比較はできないものの、すべての設問において、過去最高の満足度となりました。

### 定期点検(総合)満足度の推移



これまでのアンケート結果の分析により、「定期点検の満足度」が「レポート意向」や「推奨意向」との相関関係が高いことがわかっています。

### 定期点検関連の満足度平均点(5点満点)の推移

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総合	3.71	3.71	3.72	3.78	3.71	3.86
案内ハガキ	3.48	3.51	3.52	3.55	3.53	3.64
アポイント	3.52	3.54	3.59	3.59	3.59	3.71
訪問時マナー	3.97	4.00	4.04	4.04	3.99	4.10
点検内容	3.92	3.91	3.96	3.98	3.93	4.06
点検結果報告	3.96	3.92	3.97	4.05	3.96	4.09

### サニックスに対するご意見(自由記述) 2023年度アンケート回答より

分類	ご意見(一部抜粋)
お誉め	・シロアリ定期点検の時に気づかれた家の注意すべき点を教えていただけ、とても助かりました(水道管が少しおかしいなど)。どれも適切で信頼できる会社だと思います。いつもありがとうございます。 ・いつもながら作業員さんの態度も良く、礼儀正しく、床下の大変な所を一生懸命に働いてくれていますので感謝しています。
ご要望	・基礎のヒビ割れ等修復して頂きましたが、修理箇所、基礎等に亀裂が入る恐れがある様な地震が発生した場合、定期点検前後でも点検をお願いします。そう言う対応して頂ければ信頼度はよりアップします。 ・消毒剤の安全性や危険性に関して、ユーザーにできるだけ情報公開をしてほしい。
お叱り	・点検の連絡はもう少し早めにしてもらいたい。 ・点検に来る人が毎年代わっている。必ずしも同じ人が来なくてもよい。しかし、点検結果の説明で定型的内容には人による違いは感じられないが、基礎のひび割れなどシロアリ消毒以外の項目には説明内容の詳しさに違いがあるように感じる。

# 社会貢献活動



## スポーツ・文化国際交流振興を通じた青少年の健全育成

サニックスグループは、国際的なスポーツ大会や文化イベントを実施し、ユース世代選手の育成・国際交流の場を提供しています。その舞台は、当社創業者が私費(株式公開時に得た創業者利益)を投じてつくった、総合スポーツ・文化施設「グローバルアリーナ」(福岡県宗像市)。

スポーツ大会では、選手同士が競技以外にも、生活をともしながらコミュニケーションを図り、お互いの文化への理解を深めます。日本選手の礼儀正しさに感銘を受けた海外選手が、あいさつやお辞儀、整列などの行動を真似するようになったり、ウェルカムパーティーで、あるチームが「We are the world」を合唱すれば、次々と他のチームの選手が加わり大合唱になったり。これらも、いまや毎年の光景となっています。

### グローバルアリーナブルガリアフェスティバル

2001年から、毎年開催※ ※2001年は12月、以後9月。  
【主催:(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



■趣旨  
ブルガリアの文化を紹介するとともに、日本とブルガリア双方向の異文化・国際交流を図る。来日するカザンラック民族舞踊団は、グローバルアリーナでのイベントの他、各地の小中学校や福祉施設も訪問。

### サニックス杯 国際ユースサッカー大会

2003年から、毎年3月下旬に開催  
【主催:(一社)九州サッカー協会、(一財)サニックススポーツ振興財団】



■歴代参加国・地域  
オーストラリア、ブルガリア、中国、台湾、イングランド、フランス、インド、イタリア、韓国、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、ロシア、タイ、アメリカ、ウズベキスタン、ベトナム、日本  
(2024年までの累計参加者:8,369人)  
※女子の国内大会も2014年より実施(同累計参加者:2,176人)

### サニックスCUP 国際新体操団体選手権大会

2003年から、毎年11月下旬に開催※ ※2012年度までは国内大会。  
【主催:(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



■歴代参加国・地域  
オーストラリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、中国、台湾、香港、カザフスタン、韓国、リトアニア、マレーシア、ロシア、タイ、日本  
(2023年までの累計参加者:12,144人)

2017年より、対象の年齢層を上げた「サニックスOpen新体操チーム選手権」を1月に、国内男子による「SANIXCUP男子新体操競演会」を2月に開催。  
(2024年までの累計参加者:サニックスOpen804人、SANIXCUP男子606人)

★マークの写真は©MasafumiONO

ユース世代のスポーツイベント歴代参加者数  
(ラグビー・サッカー・ハンドボール・新体操・柔道)

**43カ国・地域から約55,000人**

(2024年3月末現在)

上記大会は、2015年10月以降、スポーツ・フォー・トゥモロー※の認定事業として実施。7年間の活動で、当会員団体が最多の認定事業を実施したことが評価され、「スポーツ庁長官感謝状」を授与されました(2022年1月)。



◀室伏スポーツ庁長官(当時)より、オンラインで感謝状授与。  
(2022年1月26日)

※スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT) 日本の官民連携によるスポーツを通じた国際貢献事業。

### サニックスワールドラグビーユース交流大会

2000年から、毎年4月下旬～5月上旬に開催。  
女子(7人制)は2013年から。

【主催:(公財)日本ラグビーフットボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



■歴代参加国・地域  
オーストラリア、カナダ、台湾、イングランド、フィジー、フランス、アイルランド、イタリア、韓国、ニュージーランド、ロシア、サモア、スコットランド、南アフリカ、トンガ、ウルグアイ、ウェールズ、日本  
(2023年までの累計参加者:13,912人)

### サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会

2008年から、毎年10月下旬に開催

【主催:九州ハンドボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団】



■歴代参加国・地域  
カナダ、台湾、フランス、ドイツ、香港、韓国、オランダ、タイ、日本  
(2023年までの累計参加者:4,027人)  
女子大会は2013年より開催。

### サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会

2003年から、毎年12月に開催

【主催:九州柔道協会、(一財)サニックススポーツ振興財団他】



■歴代参加国・地域  
オーストラリア、ベスラン、ブルガリア、チェン共和国、中国、台湾、ドイツ、香港、イスラエル、韓国、ラトヴィア、モンゴル、オランダ、パレスチナ、ルーマニア、ロシア、シンガポール、スロベニア、南アフリカ、スリランカ、アラブ首長国連邦、アメリカ、日本  
(2023年までの累計参加者:13,035人)

## グローバルアリーナブルガリアフェスティバル

2001年夏、ブルガリアを訪れた故宗政伸一(サニックス創業者=前社長)は、同国の文化や人間性に感銘を受け、以後毎年、日本で「ブルガリアフェスティバル」を開催してきました。

当フェスティバル等を通じて、日本とブルガリアの活発な文化的交流を図ってきたことから、宗政伸一は、2007年10月8日、在福岡ブルガリア共和国名誉領事に任命されました。宗政伸一の逝去に伴い、宗政寛(サニックス現社長)が2019年1月16日、在福岡ブルガリア共和国名誉領事の命を受け、現在に至ります。

コロナ禍による実施見送りや規模縮小を余儀なくされた当フェスティバルでしたが、2023年には4年ぶりに本来の姿で開催しています。

### 第20回(2023年9月)グローバルアリーナブルガリアフェスティバルより

#### ■カザンラック民族舞踊団によるイベント/国際交流

#### ワールドフェスティバル



世界の屋台料理やダンス・音楽に触れるワールドフェスティバル。ブルガリアから、カザンラック民族舞踊団\*が来日し、軽快な音楽とダンスで盛り上げます。来場者も一緒に輪踊り。  
※カザンラック民族舞踊団・・・1947年創立の、ブルガリアで最も長い伝統を誇る青少年舞踊団。

#### 公演



グローバルアリーナの所在する宗像市(福岡県)での公演。なお、宗像市は、当フェスティバルをきっかけに、カザンラック市とパートナーシップ協定を締結しています。

#### 学校・保育園・老人ホーム訪問



毎年、小中学校等を訪問し、子供たちと触れ合っています。また、老人ホームも訪問し、地域の方々との交流を深めました。



2019年3月、ブルガリア共和国ザハリエヴァ副首相兼外務大臣(当時)より、在福岡ブルガリア共和国名誉領事任命証を授与。

#### ■イベント参加



カザンラック民族舞踊団は、来日中の同時期に開催されるイベントにも参加し、民族舞踊を披露しています。写真は、チャイナフェスティバル(福岡市)。

#### ■宿泊交流



地元ダンス団体の皆さんと。



地元大学ダンス部の皆さんと。

地元の青少年が、グローバルアリーナで、カザンラック民族舞踊団メンバーと交流を図り、ブルガリアにホームステイしたような体験ができる機会を設けています。

2023年は、フェスティバル期間中、計2回実施しました。

## サニックスワールドラグビーユース交流大会

2000年から実施している、歴史ある大会です。いまや、当大会に出場した選手が、国内外トップレベルのリーグで活躍する姿も見られるようになってきました。世界中の高校生が、競技以外の生活においてもコミュニケーションを図り、互いの文化や習慣を学び、理解を深めるのも特徴の大会です。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、従来よりも参加チームを減らしたものの、4年ぶりの国際大会としての開催が叶いました(男子:例年より4チーム減の12チーム(海外6、国内6)、女子:8チーム(海外3、国内5))。

### 2023年度大会より



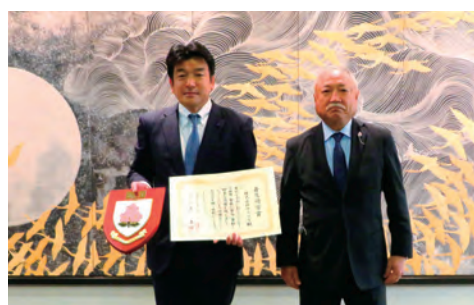
恒例のウェルカムパーティーは、飲食を伴うことから実施を控え、代わりに選手交流会を行い、文化交流を図りました。また、全試合、ライブ配信を行い、世界中から観戦いただきました。

#### 参加者談

- ◆どのチームもレベルが高かった。そんなチームと試合ができて良かったし、素晴らしい体験になりました。(男子海外チームキャプテン)
- ◆海外チームとの試合で一番感じたことは、体の大きさです。国内では、なかなか経験できない相手で、良い経験ができました。(男子国内チームキャプテン)
- ◆海外チームと試合をし、いい加減な緩いタックルでは体格差があるので通用しないと感じました。(女子国内チームキャプテン)
- ◆日本のラグビーに感銘を受けました。セットプレーとディフェンスがとても良い。でも陣形が整っていない時のプレーは我々の方が確実に上回っていました。(男子海外チーム監督)
- ◆海外の選手が、開会式前にとっても明るくあいさつして来てくれて、一緒に遊んだりして、仲を深めることができました。(女子国内チームキャプテン)
- ◆試合以外でも、他国の選手と交流する機会がたくさんありました。例えば、夜はフロントや休憩スペースに集まり親交を深めました。ユニフォームの交換もできて本当に楽しかったです。(男子海外チームキャプテン)



優勝チーム。男子(写真左):ハミルトン ボイズ ハイスクール(ニュージーランド)、女子(写真右):キングスクリスチャンカレッジ(オーストラリア)。



ラグビーの振興・発展の貢献に対し、(公財)日本ラグビーフットボール協会より2019年度普及功労賞を受賞。(写真右は、同協会森重隆会長(当時))

## サニックス杯 国際ユースサッカー大会／サニックス杯U17女子サッカー大会

2023年度(2024年3月)は、新型コロナウイルス感染症が5類感染移行後初の開催となり、海外4チーム、国内12チームの16チームで、国際大会として実施することができました。従来より国内校のみで実施している女子の大会についても、チーム数および期間を増やして、16チームで4日間の大会を実施しました。

なお、男子は全試合、女子は上位トーナメントのみ、ライブ配信を行いました。

### 2024年(2023年度)大会より



#### 参加者談

- ◆運営は時間通り行われ、試合に集中することができました。宿泊と競技が同じ施設内にあることのメリットは大きく、選手の健康管理も十分に行うことができました。(海外チームコーチ)

## サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会

ユース世代のハンドボールの普及と発展、競技力の向上、グローバルな視野を持つ青少年の育成を目指して開催している大会です。2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、香港から男子1チームを招請することができ、小規模ながら4年ぶりの国際大会となりました。女子大会の価値向上を目指し、男女とも8チームの大会に。3会場から全試合、ライブ配信も行いました。また、選手交流会では、お互いの文化やチームカラーを出し、大いに盛り上がりました。

### 2023年度大会より



#### 参加者談

- ◆大会はレベルが高く、運営もよく、選手は試合に集中することができました。グローバルアリーナは、競技にも宿泊にも快適な場所であり、スタッフのホスピタリティも素晴らしいものでした。また、参加したいと思います。(海外チームヘッドコーチ)

## サニックスCUP 国際新体操団体選手権

ジュニア・チャイルド層の新体操の普及を図るとともに、日頃の練習の成果を発表する場として、また、参加選手が技術と表現力を学び合い、国際交流を図ることを目的として開催しています。

2023年度は、海外からブルガリア、香港、中華台北から4チーム、国内からは80チームが参加し、総勢500名を越える選手たちが、日ごろの練習の成果を発揮しました。ブルガリアのレフスキー新体操クラブと、地元福岡の小学校や団体との交流も実施。地域との文化交流も推進しています。



### 参加者談

◆若い選手にとって海外の地で大会に参加することは、技術を学び向上させるのにとても大事なことです。サニックスカップでは生活もともにするので、文化も学び合うことができました。  
(オーストラリアチームコーチ)

## サニックスOpen新体操チーム選手権

ジュニア大会参加者の新たな目標となる大会として、新体操の普及を推進するとともに、世界の技術と触れ合うこと、国際交流の機会を設けることを目的としています。2023年度は、海外からはブルガリア、オーストラリア、香港、韓国の4カ国から6チーム、国内からは21チーム、総勢約130名の参加者を迎えました。

### 参加者談

◆素晴らしい環境で、試合ができて、子どもたちの刺激になりました。来年はもっとレベルアップして試合に参加したいです。(韓国チームコーチ)



## SANIX CUP男子新体操競演会

幼稚園児から高校生までを対象としている国内大会です。2023年からはジュニア対象に「ミックス部門」を新設し、団体で女子選手にも演技の機会を広げました。11チーム、約120名が参加し、技を競い合いました。

### 参加者談

◆男子新体操は大会自体が少ないので、このような素晴らしい環境で多くの選手が参加する大会を行っていただき感謝しています。(参加チームコーチ)



## サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会

中学生柔道の普及・発展ならびに競技力の向上を目指すとともに、国際大会で活躍できる競技者および、次世代を担う青少年の健全な育成を図り、国際社会で貢献できる人材を育てることを目的とした大会です。男子大会としてスタートし、10回目大会から女子大会も併せて実施。本大会の経験者から、オリンピックや世界選手権の金メダリストも誕生しています。2023年度は、海外から12チーム、国内から95チーム、男女総勢525名が出場しました。



### 参加者談

◆これだけ大勢の選手が参加する大会が当たり前に行われる環境にすることができて、素晴らしいと感じました。ぜひ今後も続けてほしいし、参加したいと思います。  
(モンゴルチームコーチ)

## 教育参画

サニックスグループでは、従業員の質が、お客様に提供する仕事の質に直結するという考えから、創業当初から、教育に注力してきました(46ページ参照)。長きにわたる従業員教育等で得た、育成に関する知見およびノウハウを、また社内の人的資源を社外にも提供しています。

### ラグビーを通じたスポーツ・健康指導～小学校では教育課程として授業に定着～



体育の授業でタグラグビー指導



体育の授業でタグラグビー指導

2022年9月の開講から、2年目を迎えた「サニックスラグビーアカデミー」。ラグビー部「宗像サニックスブルース」(2022年5月活動休止)の活動で培った経験、人材や施設を活用し、(一財)サニックススポーツ振興財団(1997年財団法人として設立)とともに、ラグビーを通じた地域貢献を継続しています。

小学校の体育の授業におけるタグラグビー指導、幼稚園・保育園児へのラグビー訪問教室、小・中学生を対象とするラグビー塾などにより、子どもたちを全力でサポート。その他、各種ラグビー関連イベントや講習会へのコーチ派遣、大人(未経験者歓迎)を対象としたラグビー教室も行っています。



サニックスラグビーアカデミー(ラグビー塾)



サニックスラグビーアカデミー(ラグビー塾)

#### 小学校(授業)でのタグラグビー指導

15校、976人(2022年度)  
15校、929人(2023年度)

#### 幼稚園・保育園ラグビー訪問教室

8園、180人(2022年度)  
9園、265人(2023年度)

#### サニックスラグビーアカデミー(ラグビー塾)

4クラス、67人(2023年3月末)  
6クラス、159人(2024年3月末)

### 「サニックスラグビーアカデミー」の諸活動

#### 小・中学生ラグビー塾



※この塾のことも「サニックスラグビーアカデミー」と呼んでいます。

小学5・6年生クラス、中学生クラスをそれぞれ週3回(平日夜)開講しています。経験豊富なコーチ陣の指導は好評で、受講生は開校から1年半で、約3倍に増加しました。

#### 各種イベントでのコーチング



コーチ陣は、日本代表発掘プログラム、国際友好記念イベント、大学ラグビー選手講習など、幅広い場で活躍しています。

写真は、日本ASEAN友好協力50周年の記念イベントプログラム「JENESYS 日本・ASEANスポーツ(ラグビー)×SDGs交流」(2024.2.20-22)。

#### 大人のにわかラグビー教室



2022年2月からスタートした、大人対象のラグビー教室。2023年11月には、「ラグビーワールドカップ2023で観たプレーの再現」をテーマとした特別編も実施しました。

### 教育現場への社内人材派遣など

#### ▶小・中学校キャリア教育への講師派遣

現在、学校教育において、将来子どもたちが、社会的・職業的に自立し、自分らしく生きていくための力を育む「キャリア教育」が推進されています。

当社においては、従業員を各種出前授業に講師として派遣し、キャリア教育のお手伝いをしています(福岡キャリア教育研究会による「夢授業」、(一社)ジョブレンズ実行委員会による出前授業など)。



# サステナビリティデータ

## 環境 Environment



### ■事業を通じた環境貢献

	単位	2021年度	2022年度	2023年度
廃プラスチック処理量	(千t)	282	273	278
廃棄資源を利用した発電量 <sup>*1)</sup>	(GWh)	291	242	262
ソーラーパネル	設置件数	(件)	1,531	952
	設置容量	(MW)	36	31
受託廃液の浄化処理量	(千t)	102	100	103

\*1) 当社プラスチックリサイクル工場にて中間処理を行ったプラスチックを原料とした発電量を記載しています。

### ■事業における環境負荷

	単位	2021年度	2022年度	2023年度
エネルギー使用量 <sup>*2)</sup>	非化石	(千GJ)	—	—
	化石	(千GJ)	377	334
温室効果ガス排出量	Scope1 <sup>*3)</sup>	(t・CO <sub>2</sub> )	10,933	9,623
	Scope2 <sup>*4)</sup>	(t・CO <sub>2</sub> )	14,309	11,610
水使用量	(千t)	295	277	253

\*2) 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度(以下:SHK制度)報告対象の当社グループ拠点における報告数値を記載しています。省エネ法改正に伴い、2023年度より非化石エネルギー使用量が報告対象となりました。非化石エネルギー使用量の大半は、(株)サニックスエナジー 苫小牧発電所における自家消費によるものです。なお、2021・2022年度の化石エネルギー使用量には、非化石プランの電気使用量を含みます。

\*3) SHK制度で算定を行った調整後排出量の数値に加え、社有車使用による数値および当社グループ内の該当数値を合算して算出しています。

\*4) SHK制度で算定を行った調整後排出量の数値に加え、当社グループ内の該当数値を合算して算出しています。

## 社会 Social



### ■雇用・従業員(サニックス単体)

		単位	2021年度	2022年度	2023年度
雇用・人員	従業員数	合計	(人)	1,869	1,868
		男性/女性	(人)	1,559/310	1,556/312
	入社数	合計	(人)	226	253
		新卒/中途	(人)	43/183	97/156
	障がい者雇用	人数/比率	(人/%)	31/2.3	31/2.4
	外国籍従業員 <sup>*6)</sup>	(人)	24	11	
	定年退職者の再雇用 <sup>*7)</sup>	(人)	132	144	
	平均年齢	(歳)	42.9	43.9	
	平均勤続年数	(年)	9.9	10.1	
	労働・休暇	平均総実労働時間	(時間/人)	2,345	2,283
平均有給休暇取得日数		(日/人)	9.7	12.4	
		(%)	56.9	68.6	
育児休業取得者数		合計	(人)	15	25
		男性/女性	(人)	2/13	6/19
介護休業取得者数		(人)	1	3	
労働安全衛生	TRIR(総災害度数率) <sup>*8)</sup>		1.25	1.97	
	LTIIR(休業災害度数率) <sup>*9)</sup>		0.56	1.17	
	災害死者数	(人)	0	0	
人財開発	年間研修参加人数(延べ) <sup>*10)</sup>	(人)	442	595	

\*6) 3月末時点で外国籍を保有する者を指します。

\*7) 3月末時点の累計を記載しています。

\*8) 20万延べ労働時間あたりの不休災害を含めた総労働災害の発生頻度。

\*9) 20万延べ労働時間あたりの休業災害の発生頻度。

\*10) 研修とは、当社人財開発部が主催する、自己研鑽を含む社員研修および、事業部門別研修を指します。

## 社会 Social



### ■地域・社会貢献活動

	単位	2021年度	2022年度	2023年度
出前授業の実施状況	人財開発部	(訪問件数)	(件)	1
		(対象人数)	(人)	190
	ラグビー部等 <sup>*11)</sup>	(訪問件数)	(件)	27
		(対象人数)	(人)	1,501
サニックスラグビーアカデミー <sup>*12)</sup>	(開催数)	(回)	—	
	(受講者数)	(人)	—	
ブルガリアフェスティバルの実施状況	(来場者数)	(人)	3,720 <sup>*13)</sup>	
サニックスプレゼンツイベントの実施状況	(参加チーム数)	(チーム)	217 <sup>*13)</sup>	
	(参加人数)	(人)	1,888 <sup>*13)</sup>	
サニックスワールドラグビーユース交流大会	(参加チーム数)	(チーム)	— <sup>*13)</sup>	
	(参加人数)	(人)	— <sup>*13)</sup>	
サニックス杯国際ユースサッカー大会 サニックス杯高校女子サッカー大会 <sup>*14)</sup>	(参加チーム数)	(チーム)	24 <sup>*13)</sup>	
	(参加人数)	(人)	582 <sup>*13)</sup>	
サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会	(参加チーム数)	(チーム)	12 <sup>*13)</sup>	
	(参加人数)	(人)	185 <sup>*13)</sup>	
サニックスCUP 国際新体操団体選手権	(参加チーム数)	(チーム)	122 <sup>*13)</sup>	
	(参加人数)	(人)	740 <sup>*13)</sup>	
サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会	(参加チーム数)	(チーム)	56 <sup>*13)</sup>	
	(参加人数)	(人)	309 <sup>*13)</sup>	
SANIX CUP 男子新体操競演会	(参加チーム数)	(チーム)	— <sup>*13)</sup>	
	(参加人数)	(人)	— <sup>*13)</sup>	
サニックスOpen 新体操チーム選手権	(参加チーム数)	(チーム)	3 <sup>*13)</sup>	
	(参加人数)	(人)	72 <sup>*13)</sup>	

\*11) 保育園・幼稚園・小学校でのラグビー授業、地域住民へのラグビー体験・健康教室も含めています。

\*12) 2022年9月に開講した、小学生から中学生を対象とするラグビー塾です。

\*13) 2020年3月~2022年12月は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、実施見送りや規模縮小(国内大会としての実施など)の対応を取っています。

\*14) 2022年度より、参加対象をクラブチームまで拡大し、大会名称を「サニックス杯U17女子サッカー大会」に変更しています。

## ガバナンス Governance



	単位	2021年度	2022年度	2023年度
取締役の人数	社内	(人)	11	
	社外	(人)	5	
	総計	(人)	16	
社外取締役比率	(%)	31		
取締役任期	(年)	1		
取締役会	開催回数	(回)	16	
監査役会	開催回数	(回)	—	
監査等委員会	開催回数	(回)	13	
コンプライアンス委員会	開催回数	(回)	0	
	委員数	(人)	15	
内部統制委員会	開催回数	(回)	11	
	委員数	(人)	14	

# マネジメント体制

2024年6月27日現在

## 取締役



代表取締役社長  
おねまさ ひろし  
宗政 寛 (1975年7月17日生)

2003年1月 当社入社  
 2007年6月 取締役役員室付特命担当  
 2013年6月 取締役副社長執行役員  
 2017年1月 代表取締役社長、現任  
 2017年1月 (株)バイオ代表取締役社長、現任  
 2017年2月 (一財)サニックススポーツ振興財団代表理事、現任  
 2017年9月 宗政酒造(株)代表取締役会長、現任  
 2020年4月 (株)サニックスエナジー代表取締役会長、現任  
 2020年7月 (株)SEウイングス代表取締役会長、現任  
 2022年6月 (公財)金子財団理事、現任



取締役 副社長執行役員  
いなだ たけし  
稲田 剛士 (1979年3月4日生)

1998年8月 当社入社  
 2009年4月 HS事業本部関西地区本部長  
 2013年6月 常務執行役員HS事業本部関西地区本部長  
 2014年4月 常務執行役員西日本SE事業本部関西地区本部長兼HS事業本部関西地区本部長  
 2016年12月 常務執行役員東日本SE事業本部本部長  
 2017年4月 常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部長  
 2017年6月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部長  
 2023年6月 取締役副社長執行役員SE・HS・ES事業統括本部長  
 2024年4月 取締役副社長執行役員SE・HS・ES事業統括本部長兼住環境事業会社設立準備室長、現任



取締役 常務執行役員  
ますだ みちまさ  
増田 道正 (1977年8月16日生)

2001年4月 当社入社  
 2010年7月 経理部長  
 2012年6月 取締役経理部長  
 2015年6月 取締役常務執行役員経理部長兼IT推進担当  
 2018年8月 (株)サニックス太陽光でんき代表取締役社長、現任  
 2019年11月 取締役常務執行役員管理本部副本部長兼エネルギー事業本部エネルギー事業開発部長  
 2022年6月 取締役常務執行役員コーポレート本部長兼管理本部長  
 2023年7月 取締役常務執行役員経営企画本部長、現任



取締役 常務執行役員  
たばた かずゆき  
田畑 和幸 (1973年4月5日生)

2000年11月 当社入社  
 2015年10月 西日本SE事業本部四国地区本部長兼HS事業本部四国地区本部長  
 2016年1月 HS事業本部営業推進部長  
 2016年5月 常務執行役員HS事業本部長  
 2017年6月 取締役常務執行役員HS事業本部長  
 2022年6月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部副本部長兼SE事業本部長兼HS事業本部長、現任



取締役 常務執行役員  
たけい ひでき  
武井 秀樹 (1970年7月21日生)

1999年8月 当社入社  
 2009年12月 環境資源開発事業本部管理部長  
 2016年4月 執行役員環境資源開発事業本部長兼管理部長  
 2016年6月 常務執行役員環境資源開発事業本部長  
 2017年10月 取締役常務執行役員環境資源開発事業本部長  
 2022年4月 取締役常務執行役員環境資源開発事業本部長兼資源リサイクル事業部長  
 2024年4月 取締役常務執行役員環境資源開発事業本部長兼資源リサイクル事業部長兼資源循環事業会社設立準備室長、現任



取締役 常務執行役員  
いのうえ もとい  
井之上 基 (1967年1月1日生)

1989年4月 (株)西日本銀行(現(株)西日本シティ銀行) 入行  
 同行西新町支店長兼福岡西ブロック長  
 2020年4月 当社入社、本社付部長  
 2022年4月 取締役執行役員SE・HS・ES事業統括本部法人営業部営業推進部長  
 2024年6月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部法人営業部長、現任

## 取締役(監査等委員)



取締役(常勤監査等委員)  
かねこ けんじ  
金子 賢治 (1951年10月2日生)

1970年4月 (株)西日本相互銀行(現(株)西日本シティ銀行) 入行  
 2008年6月 当社常務取締役事業戦略担当  
 2008年10月 常務取締役事業戦略担当兼環境資源開発事業本部長  
 2010年6月 常務取締役HS事業本部特別販売部(現法人営業部)部長  
 2017年4月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部副本部長兼特別販売部(現法人営業部)部長  
 2024年6月 取締役常勤監査等委員、現任



社外取締役(監査等委員)  
かねこ なおき  
金子 直幹 (1967年5月8日生)

2001年6月 (株)トヨタレンタリース福岡代表取締役社長、現任  
 2005年5月 福岡昭和タクシー(株)代表取締役社長、現任  
 2006年6月 福岡トヨタ自動車(株)代表取締役社長、現任  
 2009年9月 (株)SEEDホールディングス代表取締役社長、現任  
 2010年2月 昭和グループマーケティング(株)代表取締役社長、現任  
 2010年5月 トヨタ&F福岡(株)代表取締役社長、現任  
 2010年6月 九州朝日放送(株)社外取締役、現任  
 2013年6月 トヨタカローラ福岡(株)代表取締役会長、現任  
 2014年6月 昭和自動車(株)代表取締役会長、現任  
 2015年6月 当社社外取締役  
 2019年6月 当社社外取締役(監査等委員)、現任  
 2019年10月 福岡トヨペット(株)代表取締役会長、現任  
 2020年4月 トヨタモビリティサービス福岡(株)代表取締役会長  
 2022年2月 (一社)日本自動車販売協会連合会会長、現任  
 2023年9月 (株)トヨタレンタリース博多代表取締役会長、現任



社外取締役(監査等委員)  
くぼた やすみ  
久保田 康史 (1946年2月5日生)

1968年4月 最高裁判所司法研修所入所  
 1970年3月 最高裁判所司法研修所修了  
 1970年4月 弁護士登録(東京弁護士会入会) 明舟法律事務所入所  
 1980年4月 霞ヶ関総合法律事務所設立  
 同事務所パートナー弁護士、現任  
 2013年3月 ロイヤルホールディングス(株)監査役  
 2016年3月 ロイヤルホールディングス(株)社外取締役(監査等委員)  
 2016年6月 当社社外取締役  
 2019年6月 当社社外取締役(監査等委員)、現任



社外取締役(監査等委員)  
ばば さだひと  
馬場 貞仁 (1954年4月3日生)

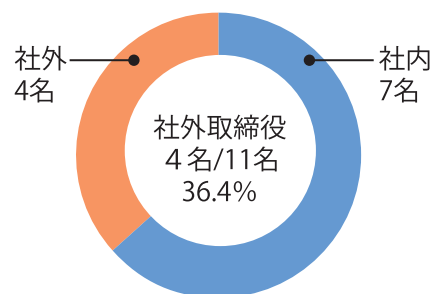
1978年4月 トヨタ自動車工業(株)(現トヨタ自動車(株)) 入社  
 1992年2月 トヨタ自動車九州(株)転籍  
 1998年1月 同社生産管理部生産企画室長  
 2001年4月 同社生産管理部長  
 2003年4月 同社経営管理部長  
 2003年6月 同社取締役  
 2007年6月 同社常務取締役  
 2011年6月 同社専務取締役  
 2014年6月 同社代表取締役副社長  
 2021年1月 同社エグゼクティブアドバイザー  
 2021年6月 リックス(株)社外取締役(監査等委員)、現任  
 2021年6月 当社社外取締役(監査等委員)、現任



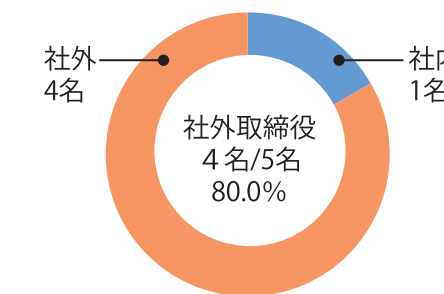
社外取締役(監査等委員)  
おさえ ひろき  
大江 啓之 (1956年6月17日生)

1979年4月 (株)ダイエー入社  
 1994年4月 (株)キャプテンクック取締役人事部長  
 1998年6月 (株)中台人事部長  
 2000年4月 (株)ダイエー西日本人事部長  
 2001年10月 扶桑化学工業(株)入社  
 2006年4月 同社取締役管理本部長  
 2007年4月 同社取締役ライフサイエンス事業部長  
 2009年4月 同社取締役電子材料事業部長  
 2016年12月 ビー・シー・イー(株)入社  
 2017年10月 同社管理本部長  
 2021年7月 同社顧問、現任  
 2024年6月 当社社外取締役(監査等委員)、現任

取締役会の構成



監査等委員会の構成



# コーポレートガバナンス

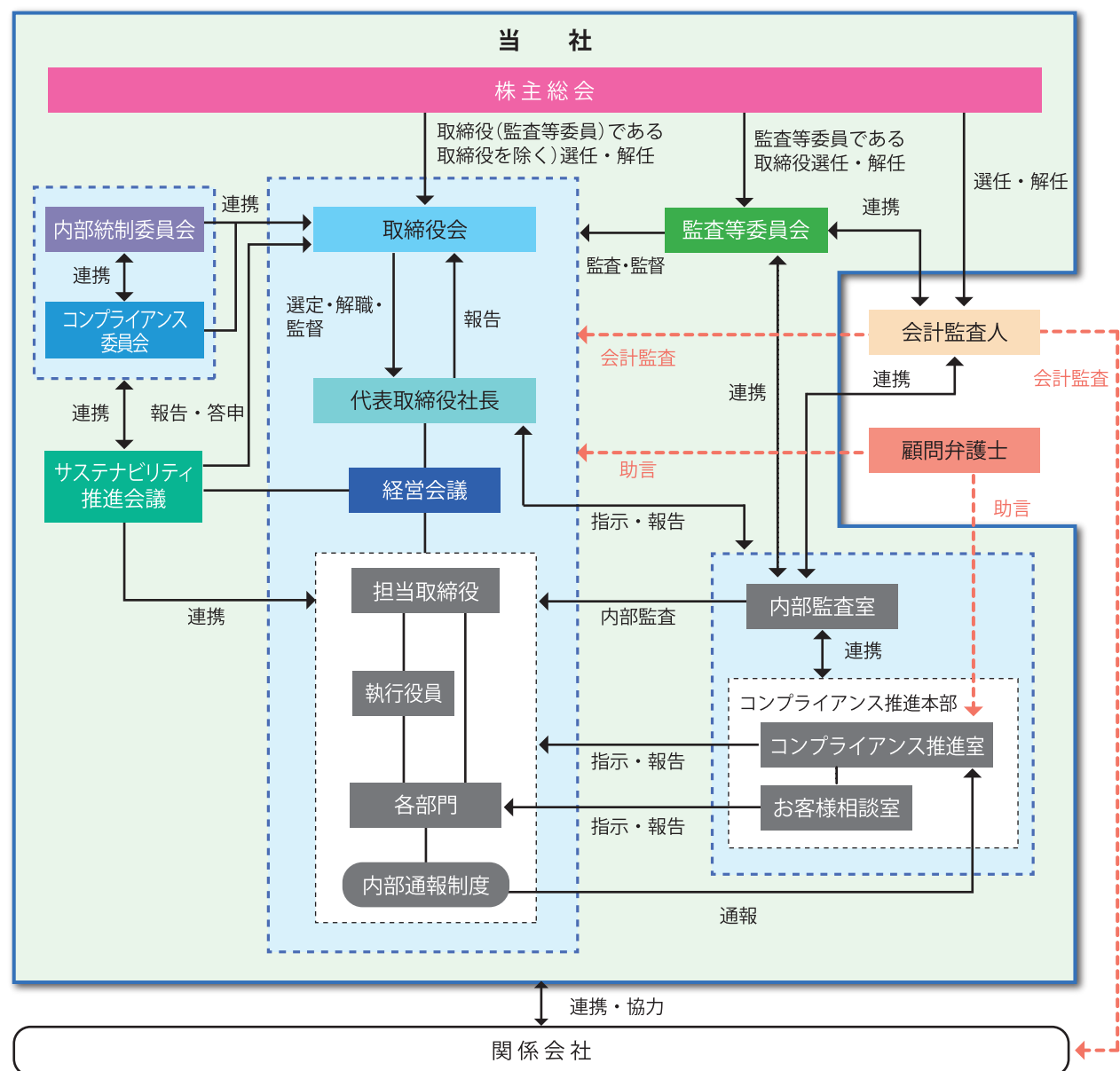
サニックスグループでは、コーポレートガバナンスは、企業倫理に基づく社会的責任をもった経営のあり方を問われている重大な問題であるという認識のもと、企業価値の最大化、ならびに株主重視の経営を行うべく、意思決定の効率化、経営の監督機能、経営の公正性および透明性、コンプライアンス遵守などが十分機能する体制の構築を図るとともに、長期的な視点に基づいたコーポレートガバナンス体制を構築します。

## ■経営の健全性と意思決定の効率化を図るコーポレートガバナンス体制

サニックスグループは、さらなる企業価値向上に資するとの判断により、監査等委員会設置会社の形態を採用しています。構成員の過半数を社外取締役とする監査等委員会を設置し、監査等委員である取締役に、取締役会における議決権を付与することで、取締役会の監督機能を高め、コーポレートガバナンスの一層の強化と経営の公正性、および透明性の高度化を図ります。また、取締役会が業務執行の決定を、広く取締役に委任できるようにすることで、業務執行と監督を分離し、意思決定の効率化を図ります。

### ■コーポレートガバナンス模式図（2024年3月末現在）

2023年6月29日開催の取締役会の決議により、2023年7月1日付で「サステナビリティ推進会議」を設置しました。「サステナビリティ推進会議」設置後の当社の企業統治の体制は以下のとおりです。



## ■取締役会の役割

サニックスグループの持続的な成長および中長期的な企業価値の向上に資するため、適法かつ迅速に重要事項（経営計画や経営戦略）に対する適切な意思決定を行うとともに、監査等委員会と協働して取締役（監査等委員であるものを除く）および執行役員の職務執行を監督する。

## ■監査等委員会の役割

取締役の職務執行の監査・監督、会計監査人の選任・解任および不再任に関する議案の内容の決定ならびに監査報酬に係る権限の行使など、その他法令および監査等委員会規程により定められた事項を実施する。

## ■内部統制委員会

- 内部統制の整備・運用を推進するとともに、有効性の評価結果の取りまとめを行う。
- サニックスグループの事業を取り巻く内外のリスク要因を見直し、取締役会に報告する。
- 適正な財務報告を実現するため、監査等委員会と緊密に連携し、適時適切に意見交換を行い、内部統制の実効性を高める。
- 委員長は取締役社長とし、各事業部門の本部長、管理本部長、総務部長、法務部長、経理部長他が委員として構成される。経営企画部内に事務局を置き、運営にあたる。

## ■監査体制（三様監査）

監査等委員は、経営会議等重要な会議に出席することで収集した各種情報を監査等委員会で共有することにより、取締役の職務遂行を監査・監督することとしています。また、会計監査人と緊密な意見交換を行い、内部監査および内部統制関連部署とは、そのレポートラインに監査等委員会を加えることにより連携を密にし、適時適切な監査・監督を実施します。

内部監査については、各部門および各事業所における業務に関して監査を行う組織として社長直轄の「内部監査室」を設置し、会社が定める規定などの遵守状況や業務全般に関して妥当性、有効性、適法性について監査し、取締役社長及び監査等委員会に報告するとともに、随時関係部門に勧告、是正指導等を実施します。

## ■社外取締役の活動状況並びに出席状況（2023年度）

	出席状況		主な活動状況（期待される役割に関して行った職務の概要）
	上段：取締役会	下段：監査等委員会	
近藤 勇	16/16	100.0%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に対する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	14/14	100.0%	
金子 直幹	12/16	75.0%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に対する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	8/14	57.1%	
久保田 康史	15/16	93.8%	法律専門家としての経験と見識に基づき、特に経営全般・ガバナンス強化のための有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	14/14	100.0%	
安井 玄一郎	13/16	81.3%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に対する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	12/14	85.7%	
馬場 貞仁	14/16	87.5%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に対する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、経営に対する監督機能を果たしている。
	12/14	85.7%	

## ■コンプライアンス委員会

業務運営の適正化を目的として、代表取締役社長を委員長、コンプライアンス推進本部長を副委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置しています（詳細は次ページ参照）。



# コンプライアンス・リスク管理

サニックスグループは、サステナブルな社会の実現に寄与する事業活動を行っている立場から、コンプライアンスを健全な企業経営の根幹と位置づけています。組織全体にコンプライアンスの意識を浸透させるため、新入社員研修カリキュラムにコンプライアンスに関する講義を含むほか、各事業部門の事業内容に関連する法令よりも厳しい基準となる「自主行動基準」を定め、その遵守に努めています。

## ■コンプライアンス遵守体制

### ■コンプライアンス委員会

サニックスグループでは業務運営の適正化を目的として、代表取締役社長を委員長、コンプライアンス推進本部長を副委員長、各事業部門主管部長およびその他選任委員を構成メンバーとする「コンプライアンス委員会」を設置しています。

2006年度以降、77回開催しています(2024年3月末時点)。また、当該委員会は必要に応じて取締役会や内部統制委員会と連携を図っています。

### コンプライアンス委員会構成メンバー (2024年3月末現在)

委員長：代表取締役社長  
 副委員長：コンプライアンス推進本部長  
 委員：S E・H S・E S事業統括本部長、P V E事業統括本部長、管理本部長、法務部長、品質製品管理部長、S E事業本部長、H S事業本部長、E S事業本部長、環境資源開発事業本部長、委員長による選任委員

## ■情報セキュリティ

### 個人情報保護

サニックスグループは、創業以来、多数の個人のお客様とお取引させていただいています。そのため、当社グループは個人情報を適切に管理することを社会的責務と考え、「情報セキュリティ方針」とは別に「個人情報保護方針」を定め、役員・従業員および関係者に周知徹底を図り、個人情報の保護に努めています。

個人情報については、当社グループが行う事業の範囲内で収集目的を明確に定め、その目的達成に必要な限度において適法かつ公正な手段によって行うものとし、管理する個人情報は、当社グループにおいて処理されるすべての個人情報を対象としています。

### データセンターの活用やペーパーレス化による物理的対策

B C P\*の観点から、基幹業務に影響する各種サーバーを外部のデータセンターに移設し、ランサムウェアへの感染も想定して、定期的にオフライン環境でのデータバックアップを実施しております。加えて、2024年1月に施行された改正電子帳簿保存法に基づき、可能な限りペーパーレス化を推進しています。

\*BCP…Business Continuity Plan(事業継続計画)のこと。大規模な災害や感染症を想定したのですが、当社グループではサイバー攻撃を想定したシステムやネットワークの早期復旧など、IT観点でのBCP対策も進めています。

### 脆弱性診断に基づく技術的対策

外部の専門家によるアタックサーフェス\*を対象とした脆弱性診断を実施し、当社グループの情報インフラ・ネットワークに致命的な脆弱性がないことを確認しています。また、従前より運用監視ルールに基づき、不正なアクセスを常時監視・遮断しています。併せて、2024年4月に施行された改正個人情報保護法に基づき、ウェブスキミング等の不正な手段により個人情報が盗まれるケースを想定し、さらにサイバーセキュリティ対策を強化していきます。

\*アタックサーフェス…サイバー攻撃される可能性のある端末や機器などのこと。



### 管理体制の構築ならびに従業員教育による人的対策

個人情報の管理については、個人情報保護方針の実施および運用に関する責任と権限をもつ個人情報保護統括管理者を設置し、その指揮のもとに、各事業本部に個人情報取扱管理者、各事業所に個人情報保護取扱責任者を配置することで、網羅的に管理を行う体制を構築しています。

併せて、手口が巧妙化し、被害件数も増加傾向にあるサイバー攻撃を踏まえ、全ての従業員に対する継続的な教育の実施が必要不可欠であると考え、サニックスグループでは入社時のみならず入社後においても継続的なオンライン研修コンテンツを用意し、情報セキュリティに関するリテラシーを向上させています。

## ■通報制度

### ■内部通報制度

不法行為などの早期発見と是正を図り、コンプライアンス経営の強化に資することを目的として、内部通報制度を設けています。この制度は、サニックスグループ従業員に限らず、従業員の家族や建設業に係る協力会社など、幅広く利用することができます。2023年度は、国内外グループ全体で11件の通報を受け付け、すべて然るべき手順で、解決を図っています。なお、財務諸表に影響を与えるような内容はありません。



建設業関係協力会社専用ページ(WEB)にも、相談窓口を設置しています。

## ■営業活動におけるコンプライアンスの具体的な取り組み

### ■自主行動基準

法令遵守はもとより、コンプライアンスに準拠した質の高いサービスの提供を目的として、事業部門ごとに、各事業内容に即した「自主行動基準」を策定し、各事業部門内で共有しています。なお、関連法令の改正などの社会情勢の変化に応じ当該自主行動基準を適宜改定しています。

### ■コンプライアンス推進協議会



B to Cの事業を行う部門については、毎月営業店舗単位でコンプライアンス推進協議会を開催しています。営業活動に密接に関わる特定商取引に関する法律(特定商取引法)に留まらず、自主行動基準やお客様満足度向上などをテーマに全職種で意見を出し合いコンプライアンス意識の向上や定着を図っています。



ご家庭向けサービスにおける取り組みについて、自主行動基準の一部を、ホームページに掲載。

### ■訪問販売員教育



▲訪問販売員教育指導者資格証

訪問販売を行うH S事業部門では、全事業所の所長および全営業・顧客管理職について、公益社団法人日本訪問販売協会の定める「J D S A認定教育登録」を推進しています(2024年3月現在、241名が取得)。また、当登録制度の充実強化策として設けられている「訪問販売員教育指導者」を、社内に22名配置し(2024年3月末現在)、登録制度に係る教育の徹底および、教育レベルの維持を図っています。

### 〈J D S A認定教育登録とは〉

販売員に対する教育を行い、その資質の向上を図ることを目的とする制度。公益社団法人日本訪問販売協会が定めた教育カリキュラムを履修し、試験に合格した販売員を登録するとともに、「J D S A認定教育登録証」が交付される。

### J D S A認定教育登録 当社教育カリキュラム

教育項目	カリキュラム	受講形態	備考
専門	会社の歴史・役割(70分) 一般建築物(140分)	一定期間に、各自、社内のeラーニングにて、全カリキュラムを受講した後、テストを受け合格する。	テキストは当社で作成し、公益社団法人日本訪問販売協会の審査を受けたものを使用。
	シロアリ(70分×2) 基礎補修(70分) 換気関連(70分×2) 遮熱・断熱(70分)		
標準	訪問販売員の心得/遵守すべき法規制/関連確報の要点	特定商取引法・割賦販売法等(360分)	当社にて集合研修。

■サプライヤー（持続性のあるバリューチェーンの構築）

■安定的な調達に向けて

サニックスグループでは、サプライヤーにおける災害発生時や事故発生時、需給逼迫時などにおける調達リスクを軽減し、安定した調達を継続するために、国や地域のもつ固有のリスクや特徴などを加味した上で、

- ①品目ごとに設定した安全在庫数量の管理
- ②マルチサプライヤー化の推進
- ③代替品の検討
- ④物流ルートの把握

などを実施しています。

■BCP（事業継続計画）

サニックスグループでは、地震、風水害等の自然災害、火災などの緊急事態に遭遇した場合において、従業員とその家族の安全を確保しながら事業資産の被害を最小限に留めつつ、事業の継続あるいは早期復旧を図ることにより、お客様、お取引先様などからの信頼の維持、および会社の存続を図り、ひいては社会経済の発展に資することを目的に、事業継続計画を定めています。

〈サニックスグループの災害時における基本方針〉

- (1) 従業員とその家族の生命・安全の確保を最優先とする。
- (2) 事業へのダメージを極小化し速やかに業務の早期復旧を図る。
- (3) 顧客との信頼関係を第一とする行動をとる。
- (4) サニックスグループとして求められる社会的責務を遂行する。

定期的に各種取り組みを実施し、従業員の防災意識の向上を図るとともに、緊急事態への備えを強化しています。

〈取り組み例〉

- ・従業員に対する安否確認アプリの使用訓練
- ・災害時備蓄品の棚卸し
- ・各事業所の避難場所や緊急連絡先、避難経路の確認、更新
- ・従業員に対する防災に関する意識調査
- ・WEB社内報を活用した従業員への啓蒙活動

■製品等重大事故への対処

サニックスがお客様※に販売・提供した、製品（他メーカー製造のものを含む）や施工サービス等が原因で、重大な事故が発生した場合の対応について、「製品等重大事故対処規程」を定めています。

※消費生活用製品安全法で定められている一般消費者。

〈製品等重大事故対処 基本方針〉

- (1) 当社は、製品等重大事故において「お客様第一」を行動の基本方針とし、誠意ある対応に努める。
- (2) 製品等重大事故の原因が他者にある場合、事実を適正に扱い、当該他者の事故隠し、虚偽化もしくはそれにつながるような不正行為には加担・協力をしない。
- (3) お客様や第三者の人身に損害がなくとも「今後発生するかもしれない」というリスク認識の下で行動する。

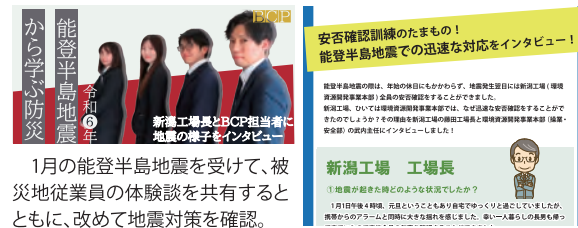
【安否確認アプリ使用訓練】

BCP対策本部からの安否確認（一斉通知）に対して、迅速に自身の安否報告ができるかを確認するものです。2023年度は、休日や多忙な勤務時間帯など、発信時間を変えて、4回実施しました。時間を問わず発生する災害を想定したものです。

〈訓練結果〉

発信日時	対象者数	安否報告率	
		当日	翌日まで
2023年6月15日(木) 9:00	1,983	84.2%	97.3%
2023年9月18日(月・祝) 10:00	1,978	51.4%	82.2%
2023年12月20日(水) 14:00	1,971	57.4%	72.9%
2024年2月18日(日) 10:00	1,973	50.8%	63.8%

【WEB社内報による啓蒙事例】



データセクション



財務データハイライト

株式情報

会社情報

## 財務データハイライト

(百万円)

年間	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	95,629	61,916	50,955	49,993	50,719
営業利益	△3,142	△2,229	1,036	1,246	1,224
E B I T D A ※1	△2,598	△3,151	1,633	1,939	1,735
親会社株主に帰属する当期純利益	△4,966	△4,604	416	1,180	240
減価償却費	887	918	688	709	808
設備投資	1,825	455	599	594	1,080
営業活動に関するキャッシュ・フロー	△1,794	△5,403	1,668	2,184	△25
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△1,181	1,062	△409	171	△947
財務活動に関するキャッシュ・フロー	647	1,288	1,437	△2,156	392

期末時点	(百万円)				
総資産	49,120	31,248	31,645	29,938	31,009
有形固定資産	15,099	12,417	12,278	11,926	12,057
有利子負債	11,186	12,874	14,634	12,780	13,474
純資産	7,331	2,629	2,845	4,076	4,193
	(円)				
【1株当たり金額】					
1株当たり当期純利益	△103.98	△96.32	8.70	24.68	5.02
1株当たり純資産	152.74	54.34	58.86	84.54	87.08
配当金	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	(円)				
【財務指標】					
自己資本当期純利益率(ROE) ※2	△52.0%	△93.0%	15.4%	34.4%	5.8%
総資産経常利益率(ROA) ※3	△6.6%	△4.9%	2.9%	3.3%	3.9%
投下資本利益率(ROIC) ※4	△23.1%	△15.7%	3.4%	8.6%	2.3%
自己資本比率	14.9%	8.3%	8.9%	13.5%	13.4%
社員数(期中平均)	4,092人	2,850人	1,952人	1,777人	1,876人

※注記

※1 E B I T D A : 税引前利益+支払利息+減価償却費

※2 自己資本当期純利益率(ROE): 当社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本×100

※3 総資産経常利益率(ROA): 経常利益÷期首・期末平均総資産×100

※4 投下資本利益率(ROIC): 税引後営業利益÷(株主資本+有利子負債)×100

(百万円)

年間	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	52,531	49,416	50,936	46,277	47,167
営業利益	2,791	2,325	△2,618	1,785	3,744
E B I T D A ※1	3,714	3,397	△1,365	3,741	5,398
親会社株主に帰属する当期純利益	1,850	1,965	△3,449	1,332	2,697
減価償却費	914	1,097	1,509	1,889	1,654
設備投資	2,742	3,038	2,776	1,566	2,743
営業活動に関するキャッシュ・フロー	4,080	2,756	△3,067	5,034	4,821
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△2,154	△2,564	△2,937	△1,056	△1,800
財務活動に関するキャッシュ・フロー	△1,110	△743	4,447	△3,307	△678

期末時点	(百万円)				
総資産	32,514	32,940	34,953	33,586	36,965
有形固定資産	13,739	15,322	16,382	16,100	17,232
有利子負債	12,397	11,462	15,268	12,379	11,719
純資産	6,056	8,097	4,732	6,068	8,912
	(円)				
【1株当たり金額】					
1株当たり当期純利益	38.72	41.11	△72.16	27.87	56.43
1株当たり純資産	126.15	168.84	98.52	126.51	186.04
配当金	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	(円)				
【財務指標】					
自己資本当期純利益率(ROE) ※2	36.3%	27.9%	△54.0%	24.8%	36.1%
総資産経常利益率(ROA) ※3	8.2%	6.4%	△8.5%	4.5%	9.8%
投下資本利益率(ROIC) ※4	10.8%	11.2%	△14.6%	8.4%	14.4%
自己資本比率	18.5%	24.5%	13.5%	18.0%	24.1%
社員数(期中平均)	2,005人	2,052人	2,073人	2,099人	2,081人

## 財務データハイライト

### 【連結貸借対照表】

(百万円)

	2022年度	2023年度
<b>資産の部</b>		
現金及び預金	4,504	6,397
受取手形及び売掛金	4,827	5,436
棚卸資産	3,199	3,181
その他	1,382	1,301
貸倒引当金	△229	△105
流動資産合計	13,683	16,211
建物及び構築物(純額)	2,355	2,145
機械装置及び運搬具(純額)	4,286	4,718
土地	8,209	8,248
リース資産(総額)	810	847
建設仮勘定	268	1,115
その他(純額)	170	157
有形固定資産合計	16,100	17,232
無形固定資産合計	595	484
投資その他の資産合計	3,206	3,036
固定資産合計	19,902	20,753
資産合計	33,586	36,965
<b>負債の部</b>		
支払手形及び買掛金	2,463	1,968
電子記録債務	782	486
短期借入金	3,462	4,015
1年以内返済予定の長期借入金	1,372	1,364
未払金	3,296	4,503
その他	5,004	5,671
流動負債合計	16,382	18,010
社債	500	700
長期借入金	5,472	4,107
処分場閉鎖費用引当金	523	577
退職給付に係る負債	2,104	2,217
その他	2,535	2,440
固定負債合計	11,135	10,042
負債合計	27,518	28,053
<b>純資産の部</b>		
資本金	14,041	14,041
利益剰余金	△6,666	△3,968
自己株式	△1,481	△1,481
株主資本合計	5,893	8,591
その他の包括利益累計額	154	302
非支配株主持分	20	18
純資産合計	6,068	8,912
負債純資産合計	33,586	36,965

### 【連結損益計算書】

(百万円)

	2022年度	2023年度
売上高	46,277	47,167
売上原価	30,068	29,064
売上総利益	16,208	18,102
販売費及び一般管理費	14,423	14,358
営業利益	1,785	3,744
営業外収益	185	142
営業外費用	418	420
経常利益	1,552	3,466
特別利益	—	—
特別損失	—	19
税金等調整前当期純利益	1,552	3,446
法人税等	341	634
法人税等調整額	△119	116
当期純利益	1,329	750
非支配株主に帰属する当期純利益	△2	△1
親会社株主に帰属する当期純利益	1,332	2,697

### 【連結包括利益計算書】

(百万円)

	2022年度	2023年度
当期純利益	1,329	2,695
その他の包括利益		
その他の有価証券評価差額金	29	65
為替換算調整勘定	6	57
退職給付に係る調整額	△24	25
その他の包括利益合計	11	148
包括利益	1,341	2,844
親会社株主に係る包括利益	1,343	2,845
非支配株主の関わる包括利益	△2	△1

### 【販売費及び一般管理費】

(百万円)

	2022年度	2023年度
販売手数料	650	612
広告宣伝費	341	408
貸倒引当金	77	△44
人件費	8,680	8,359
賃借料	1,060	1,063
減価償却費	368	376
その他	3,243	3,582
販管費 合計	14,423	14,358

## 財務データハイライト

【連結キャッシュフロー計算書】

(百万円)

	2022年度	2023年度
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,552	3,446
減価償却費	1,889	1,654
減損損失	—	19
賞与引当金の増減額(△は減少)	△10	19
処分場閉鎖費用等引当金の増減額(△は減少)	△209	54
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	117	138
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△57	△123
受取利息及び受取配当金	△17	△13
支払利息	299	252
売上債権の増減額(△は増加)	1,766	△608
棚卸資産の増減額(△は増加)	△452	33
その他の流動資産の増減額(△は増加)	150	△71
仕入債務の増減額(△は減少)	△558	△804
未払金の増減額(△は減少)	209	971
未払消費税等の増減額(△は減少)	616	△230
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△96	288
その他	444	297
<b>小計</b>	<b>5,645</b>	<b>5,324</b>
利息及び配当金の受取額	15	32
利息の支払額	△298	△249
法人税等の支払額	△374	△376
法人税等の還付額	46	91
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>5,034</b>	<b>4,821</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△998	△352
定期預金の払戻による収入	1,089	824
有形固定資産の取得による支出	△1,073	△2,091
有形固定資産の売却による収入	7	13
無形固定資産の取得による支出	△62	△135
その他	△18	△57
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,056</b>	<b>△1,800</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△6,689	553
長期借入れによる収入	5,053	—
長期借入金の返済による支出	△892	△1,372
社債の発行による収入	—	500
社債の償還による支出	△200	△200
セール・アンド・リースバックによる収入	66	41
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△504	△540
セール・アンド・割賦バックによる収入	524	1,140
割賦債務の返済による支出	△639	△775
その他	△26	△23
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△3,307</b>	<b>△678</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	10
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	673	2,352
現金及び現金同等物の期首残高	3,243	3,916
現金及び現金同等物の期末残高	3,916	6,269

## 株式情報

(2024年3月末現在) ※株主メモに限り2024年6月末日現在

### 株式の状況

発行可能株式総数	163,500,000株
発行済株式総数	48,919,396株
株主総数	11,528名

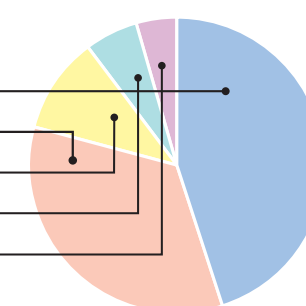
### 大株主(上位10名)

	氏名または名称	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く)の総数 に対する所有株式数の割合(%)
1	株式会社バイオ	8,716	18.23%
2	宗政 寛	6,454	13.50%
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,703	7.74%
4	光通信株式会社	3,582	7.49%
5	一般社団法人サニックス共済会	1,700	3.55%
6	株式会社UH Partners 2	1,473	3.08%
7	サニックス社員持株会	1,220	2.55%
8	株式会社SBI証券	906	1.89%
9	株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	600	1.25%
10	株式会社西日本シティ銀行	536	1.12%

### 株式分布状況

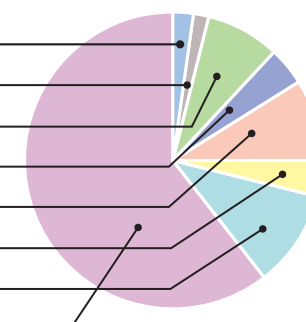
■所有者別(単位:千株)

個人その他	20,931	(46.06%)
その他の法人	16,775	(35.14%)
金融機関	5,183	(10.86%)
外国法人等	2,761	(5.78%)
金融商品取引業者	2,152	(4.51%)



■所有数別(単位:千株)

1単元以上	1,168	(2.45%)
5単元以上	822	(1.72%)
10単元以上	3,823	(8.01%)
50単元以上	1,976	(4.14%)
100単元以上	4,258	(8.92%)
500単元以上	1,827	(3.83%)
1,000単元以上	5,008	(10.49%)
5,000単元以上	28,893	(60.52%)



※自己名義株式(1,115,213株)及び単元未満株式を除いて集計しています。

### 株主メモ(2024年6月末日現在)

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の 基準日	毎年3月31日 9月30日
定時株主総会	毎年6月
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード 福岡証券取引所
公告の方法	電子公告 公告掲載URL <a href="https://sanix.jp">https://sanix.jp</a>

(ただし、電子公告によることが  
できない事故、その他やむを得  
ない事由が生じたときは、日本  
経済新聞に公告いたします。)

# 会社情報 (2024年3月末現在)

## 会社情報

商号	株式会社サニックス
本社	福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目1番23号
設立	1978年9月
資本金	140億4,183万円
従業員数	2,049人(連結)
拠点数、主な拠点	
H S 事業	5 地区本部、62拠点
E S 事業	12拠点
S E 事業	2 地区本部、14拠点
P V 事業	30拠点
新電力事業	1 拠点
E R D 事業	19拠点 ※グループ会社の発電所、最終処分場含む



## 主なグループ会社 (2024年7月1日現在)

会社名	主な事業の内容		議決権の 所有割合
	当社関連事業		
(株)サンエイム	H S・P V	薬剤等の製造販売および車両リース・レンタル	100.0%
(株)サニックスエナジー	E R D	プラスチックをリサイクル燃料とする発電	100.0%
(株)サニックス・ソフトウェア・デザイン	H S・P V	各種情報システムの受託開発、各種ソリューションシステムの提供および人材派遣	100.0%
(株)サニックス太陽光でんき	新電力	家庭向け電力小売事業	100.0%
(株)サニックスソリューション	E R D	廃棄物処理コンサルタントおよび燃料添加剤等の販売	77.5%
善日(上海)能源科技有限公司	P V・S E	太陽電池モジュールとその関連部品の生産・販売・輸出入	100.0%
(株)C & R	E R D	産業廃棄物の最終処分、リサイクルおよび石油タンク洗浄等	100% (100%)
(株)北海道サニックス環境	E R D	産業廃棄物処理事業および付随する事業	100% (100%)
(株)S E ウイングズ	E R D	電力購入、電力小売およびその他電力周辺事業	100% (100%)
善日(嘉善)能源科技有限公司	P V・S E	太陽電池モジュールの生産および販売	100% (100%)
(株)サニックスエンジニアリング	P V	企業・法人向け太陽光発電システム等の販売・施工	100.0%
(株)ホームビルドサービス	S E・H S ・E S	建設業の許可を要する建設工事に係る事業	100.0%

## WEBサイトのご案内

当社の詳細については、WEBサイトをご覧ください。

サニックス企業情報  
<https://sanix.jp/company/>

投資家・株主向け情報  
<https://sanix.jp/ir/>

ご家庭向けサービス  
<https://sanix.jp/hs/>

法人向けサービス  
<https://sanix.jp/biz/>